

# リつめい

題字・末川 博名誉総長

R Alumni

立命館大学校友会

立命館大学校友会報

NO.  
245

2011  
JULY

臨時特集

## 震災復興にむけて



音楽で、世界中の垣根を越えたい

和太鼓・芸能集団「BATI-HOLIC」  
代表 黒坂 周吾 さん ('00政策)

Brilliance  
輝くひと

77



## 03 臨時特集

## 震災復興にむけて

SPECIAL

## 04 ~神戸からのエール~

元兵庫県理事・震災復興本部総括部長  
辻 寛さん09 震災を経験した学生からのメッセージ  
渥美 勉さん10 被災地の校友からのメッセージ  
立命館学園における震災の影響と  
復興支援にかかわる取り組みについて12 +Rな人  
桜井政成さん  
柳瀬 顕さん01 輝くひと  
黒坂周吾さん

## 14 校友会長を訪ねて

滋賀県校友会会長 柊 勝次さん  
富山県校友会会長 坪井新一郎さん

## 16 2011年度校友会幹事会報告

## 18 校友NEWS

## 20 校友会ネットワーク

## 21 「オール立命館校友大会2011 in 京都」のご案内

22 立命館の研究者たち  
文学部 赤間 亮教授

## 24 読者の声

## 25 キャンパストピックス

## 28 学生イベント&amp;スポーツ

## 30 INFORMATION

## 31 編集室から



18



25



28



## |表紙|の|人|

和太鼓・芸能集団  
「BATI-HOLIC」代表  
黒坂 周吾さん  
('00政策)

## 音楽で、世界中の垣根を越えたい

「僕たちの音楽が観ている人のものになるように。鑑賞会ではなく、観客が一体となるステージを」。

「太鼓中毒」という意味の「BATI-HOLIC(バチ・ホリック)」は、立命館のサークル「和太鼓ドン」で出会った仲間達によって04年に結成された。国内外を問わず年間100カ所以上で公演し、斬新でありながら懐かしく、情熱的なステージで観客を魅了する。そんな精力的な活動を行なう集団の代表を務めるのが黒坂さんだ。

「音楽という宝物があれば出会える人の数は格段に増える」。和太鼓との出会いは中学生の時。以来、太鼓以外にもロックバンドの活動など、音楽と共に青春時代を過ごした。高校卒業後はアメリカの大学に進学。自己のアイデンティティーを常に問われる海外生活を通して、日本について、日本人としての自らについて振り返るようになった。「その時自分の中にある日本人としての心・和太鼓に気付いた」。帰国後立命館に入学し、バチ・ホリックへとつながる学生サークル「和太鼓ドン」を発足した。

オリジナル曲も多いが、一方で日本各地で教わった伝統曲や郷土芸能を独自にアレンジした楽曲もまたバチ・ホリックの持ち味だ。「古くから日本各地で伝えられてきた音楽の熱が新しい音楽を生み出して世界で通用することを証明したい」。公演で各地を巡るにつれ、その音楽は重層的に進化していく。

「ステージの後、観た人の人生が少しでも変われば」。東日本大震災後の「自粛ムード」の中でも、強い気持ちでライブを敢行した。「人が生きるため、生きたいと思うために表現を始めた僕たちが、いま表現しなきゃいつやるのか。様々な復興が求められるが、最終的には心の復興が大切。『生きるためにある芸術』なら傷ついた心に直接アプローチできる。今が自分達の存在の真価が問われる時」。

10月に開催される「オール立命館校友大会2011 in 京都」に出演する。「バチ・ホリックのルーツ・立命館への感謝の気持ちを込めて、並々ならぬ気合で挑みます! ぜひ一緒に楽しんで下さい」。

(文・平松万知)

7月23日、京都FanJにて公演。詳細はHPまで

HP <http://www.bati-holic.jp/>Blog [http://blog.livedoor.jp/bati\\_holic/](http://blog.livedoor.jp/bati_holic/)

# 震災復興にむけて

このたびの東日本大震災によって尊い命を奪われた皆様のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

岩手県・宮城県・福島県の3県には1,200名を超える校友が在住されていますが、沿岸部を中心に甚大な被害が生じており、現在でも在住校友の安否確認や被災状況の全体像を把握することが困難な状態にあります。とりわけ福島県では、原発事故と風評被害により現在でも非常に厳しい状態が続いており、また岩手県陸前高田市においては、1名の校友がお亡くなりになったことが、先日の新聞報道で明らかになりました。

被災地の復旧・復興には、今後、長い期間と物心両面からの支援が必要となります。立命館大学校友会では、被災された校友に対する支援の一環として、震災直後の3月下旬より義援金募集の取り組みを開始しました。この間、各都道府県や海外を含むグループ校友会、また校友個人など、多くの皆様から義援金にご協力をいただきました。皆様のご厚情に深く御礼申し上げます。

立命館大学校友会は、引き続き義援金募集を継続するとともに、去る6月4日に開催された常任幹事会において、特別委員会を設置し復興支援事業の実施について検討を進めることを決めたほか、同日の幹事会において声明『東日本大震災復興・再生のために』を全会一致で採択し、被災された校友や現役学生、そして社会全体の復興・再生に貢献するために、校友会をあげて全力を尽くし邁進していくことを確認しました。今後の取り組みに際しまして、引き続き全国の校友の皆様による深甚なるご支援とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、東日本大震災復興支援特別委員会を6月下旬までに設置し、復興支援事業や義援金募集の方法等について検討を行ない、各種取り組みの具体的内容については、あらためて立命館大学校友会ホームページ <http://alumni.ritsumeijp/> においてご案内いたします。また、義援金募集にご協力いただいた個人・団体については、今後会報「りつめい」においてご芳名を掲載させていただきます。

立命館大学校友会 会長 山中 諄

※3月下旬より展開しております義援金募集については、立命館大学校友会ホームページ上にて要領等を公開しております。  
<http://alumni.ritsumeijp/>

## 会報編集者を代表して

立命館大学校友会 広報委員長 中村和歳

「3・11」、東日本大震災が起こった。戦後最大の震災が日本列島を襲った。被災された方々には、衷心よりお見舞い申し上げます。日本列島全土を焦土と化したあの戦争被災に匹敵する大災害である。マグニチュード9.0の地震、高さ38mの津波、そして原発事故。広島・長崎の被爆体験が再び国民を襲っている。住まいや故郷を、安心できる食品を、自由な学びの場を、そして仲間との楽しい日々を市民から奪い去っている。

今号の「りつめい」では、全国で活躍する校友30万人の連帯の強化を願って校友の持つ知恵を特集し、新しい文化創造に寄与したい。

# 震災復興に向けて

～神戸からのエール～



## 辻 寛 さん（'62法）

立命館大学兵庫県校友会会長  
元兵庫県理事・震災復興本部総括部長、  
元兵庫県出納長、元兵庫県信用保証協会理事長、  
元兵庫県社会福祉協議会会長

### Profile

（ツジ ヒロシ）

1936年5月奈良県生まれ。1962年3月立命館大学二部法学部卒業。同年4月兵庫県庁入庁、企画部長を経て1995年理事兼阪神・淡路大震災復興本部総括部長に就任。1999年より2年間出納長を務める。県庁退職後は、兵庫県信用保証協会理事長、兵庫県社会福祉協議会会長を務めた。

東日本大震災の復興に向けて、遠く神戸から、強く思いを馳せる校友がいる。現在、立命館大学兵庫県校友会の会長を務める辻寛さん。辻さんは、1995年の「阪神・淡路大震災」発生を受けて兵庫県庁に設置された震災復興本部の初代総括部長として、貝原俊民兵庫県知事（当時）とともに、神戸を襲った未曾有の危機に敢然と立ち向かい、復旧・復興に奔走。県庁退職後も数々の公職において、地域社会の再生に精力を傾けてきた。東日本大震災の復興・再生に向けて、辻さんにその思いを聞いた。（構成・野村慶人）

## 東日本大震災発生後の状況をどうみるか

新聞・テレビ報道やWebなどの発言などをみていると、被災地の自治体職員や災害復旧にあたる公務員、企業の職員など、現場で一生懸命やっている人たちへの無慮な批判が多いと感じています。これらの人たち自身、あ

るいはその家族が被災者である場合も多い。自分や家族のことは後回しで、日常の業務プラスアルファ、しかも緊急性のある仕事をかかえて事態の打開に取り組んでいるという現実を、みなさんには斟酌してほしいと思います。

報道関係者自身の被災有無が報道の表現に与える影響もあります。「阪神・淡路大震災（以下「阪神・淡路）」の時もありましたが、地域の実情を踏まえていない報道が、情報のミスリードを惹起し、復旧作業に混乱を与える。このことで最終的に不利益を被るのは被災者です。報道関係者にはこの点を肝に銘じて活動してほしいと切に願っています。

現場視察の是非など、首相の行動に対しての批判も多い。中には真摯に耳を傾けるべき意見も含まれていますが、「阪神・淡路」の事例に鑑みて、私は、責任者は絶対に「現場」を見るべきだと考えます。特に、重大な決断を要するときほど、「現場」をみて判断すべきでしょう。「現場」を確認することで、対策指示の具体性や的確性が増します。



## このような異常時、 行政は課題にどのように対応すべきなのか

復旧現場の状況や被災者の要望に応じて行政が対策すべきことは、震災発生からの時間経過によって刻々と変化していきます。たとえば、震災発生直後は、被災者の食料・水・トイレの確保が急務。要救助者の対応、二次災害の防止、遺体収容なども対処します。少し時間が経つと、温かい食事やリフレッシュ機会の提供など被災者に対するケア、各自治体がつもつ災害救護金や義援金の配分、仮設住宅やライフラインの復旧、ガレキの処理なども加わってきます。これら喫緊の課題に対し、早急かつ確実に対処するためには、行政の各部局間で案件を調整し、すぐさま実行に移していかなければならない。「阪神・淡路」の際、兵庫県庁では、知事と各部局長による災害対策本部会議を連日、朝昼晩と1日3回開き、次々と顕在化する課題に即応しました。組織についても、復旧・復興の状況にあわせて機動的に対応するた

め、随時改編していました。貝原知事以下幹部は誰も自宅に帰る余裕などなく、県庁への泊り込みは約100日におよびました。みんな、被災者の方々が避難所にいる間はゆっくりしたいという気持ちを持たず、風邪をひくことさえありませんでした。

「阪神・淡路」以前は、大震災発生時に行政が何をなすべきなのかまとめた文献・資料などは全くと言っていいほど存在せず、手探りの対応を余儀無くされる面も多々ありました。この反省をふまえて兵庫県は「公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構」を設立し、その中核「人と防災未来センター」において、「阪神・淡路」の教訓を将来の災害による被害軽減―「減災」―につなげるための政策研究や、情報発信を行なっています。今回の東日本大震災においても、具体的支援を検討するため直後から研究員が現地に入り調査を実施し、「被災者の生活再建に向けて」という提言を行ないました。

## 「阪神・淡路」の教訓と 東日本大震災復興に向けた提言

「阪神・淡路」の復興については、「凄まじいパワーであった」や「奇跡の復活」などと表現されることもありますが、それは表面的な部分のみを捉えた見方です。神戸の街中を歩くと、特に裏通りでは、住宅の跡地や閉じた店舗などが散見され、震災後16年を経た今も復興を果たされていないことをつくづく実感します。大災害の恐ろしさとは、物のかたちは戻すことができても、人の命や営みを元に戻すことはできないということ。悲劇を繰り返さぬためにも、平時から「減災」を心がけていくしかありません。

今(5月上旬現在)、政府主導で復興院を作るという話が出ていますが、「阪神・淡路」の場合、兵庫県はそれを望まず、復興は地元主導で進め、政府が支援することを求めました。大震災が発生すると街の発展は停止します。復旧には4～5年の歳月を要しますが、単なる復旧では震災が起こる以前に比べて街の発展が本来より5～6年遅れるだけ。「震災が無かりせば、街はどのようになっていたのだろう」とひたむきに考え、尊い命を失ったあまたの犠牲者に思いを馳せ、その魂に報いるため将来を見越した街づくりを目指すことが「復興」であると私は考えます。これを兵庫県は「創造的復興」と称し、街づくりの哲学としました。復興はその地域風土を知り尽くし、地元に着々と誇りを持つものでしか成しえないことなのです。

地元主導といっても、中央官庁との折衝は困難を極めました。「前例が無い」と渋る官僚に対し、「あのような甚大地震、過酷な被災状況に前例などありますか」と応酬したことも度々。今思い返しても悔しさが溢れます。それでもくじけなかったのは、リーダーたる貝原知事の地域再生にかける確固とした信念、復興本部職員や各部署局長など同僚の奮闘、そして何よりも県民のみなさんの頑張りです。政府で開かれる「阪神・淡路復興委員会」に出席するため知事と防災服で新幹線に乗り込むと、「頑張ってくださいよ!」と乗り合わせた人から声をかけられ、二人とも目頭を

熱くしたまま東京に向かうこともありました。

今回は被災規模が余りにも甚大であるため、まだその動きが出ていませんが、研究者や有識者が中立的な立場で提言調整する場、「被災者復興支援会議」を是非立ち上げてほしいと思います。長期間避難を余儀無くされている被災者には様々な不平や不具合が必ずあります。「阪神・淡路」の際は震災後3カ月くらいにこの組織が立ち上がり、被災者と行政との間に意志の疎通が欠けるおそれのあるところをカバーしました。

復興計画の策定にあたっては、ぜひとも住民の意見を聞いてほしいと思います。「阪神・淡路」では、「県民の意見を聞かない計画など無意味」という貝原知事の信念から、八つの領域からなる「復興県民会議」を立ちあげ、各地で県民フォーラムを開き、復興にかける人々の熱い気持ちを計画に反映させました。いろいろな人をまきこんでつくった計画だからこそ、具体化の段階で大きな力が得られたと確信しています。

津波で壊滅的被害を受けた市街地の移転や漁港の再整備、農地再興など、「阪神・淡路」と東日本大震災ではハード面の取組みが大きく異なり、また被災範囲が広範にわたるため、地元自治体や住民のみなさんには想像を絶する苦労があるでしょうが、地元主導の復興を貫き、政府にはそれを全面的に支援するという姿勢を強く期待したいと思います。

県職員としてのキャリアを福祉事務所職員としてスタートした辻さんは、兵庫県出納長を退職後、兵庫県社会福祉協議会会長を務めた。社会福祉を自らのフィールドと語る辻さんは、震災にかかるボランティアのあり方についても伝えておきたいことがあると言う。

## 東日本大震災復興支援 ボランティアを志すみなさんへ

被災地支援のボランティアを志す人には、まずもって感

謝と激励の言葉を送ります。しかしながら、次のようなことも申し添えたいと思います。まず、第一に、「被災地域の事情や要請に即応して動いてほしい」ということ。ボランティア各人の確かな力量や経験に裏打ちされた得意領域の支援を提供できるのが理想的ではありますが、現場では混乱が続く中、作業の領域がうまくマッチングするとは限りません。もし要請内容が多少不得意な領域であったとしても、真摯に取り組んでほしいのです。「必要なことを手伝う」という基本姿勢を決して忘れないでください。

次に「手助けを必要とする地域はたくさんあり、時に情報が埋もれることがある」ということ。これはテレビ・新聞の影響が顕著ですが、報道で取り上げられる地域にボランティアが集中し、他の地域では全然人手が足りないという場合があります。実際、近年兵庫県下で水害が発生した折も、繰り返し被災報道がなされた地域にボランティアが殺到する一方、同じ河川流域の他の地域には一人も来なかったという事例がありました。報道は被災のほんの一面を伝えているに過ぎません。「ボランティアを思い立ったものの、どこに行くべきか判断がつかない」というような場合には、最寄りの社会福祉協議会に声を掛けてください。社協は全国津々浦々に緊密なネットワークを構築しており、被災地が「今どのような支援を必要としているか」など、ダイレクトな情報を持っています。ぜひ活用してください。なお、言うまでもないことですが、ボランティアは食事や睡眠場所の確保など、「自己完結型」が原則です。自分勝手な振る舞いで被災地や他のボランティアに迷惑をかけることは、厳に慎んでください。

## 震災復興にかかわる人たちへ、 そして被災者のみなさんへ

まず、直接的な被災がなかった地域の人たちは、旅行やレクリエーションを自粛したりするのではなく、普段どおりの生活を続けながら、被災者や被災地のことを慮ってほしいと思います。現地で苦しんでいる人がいるということ



忘れないでください。また風評被害の加害者にならないように注意してほしい。次にどのような災害が起こるかは誰にもわかりません。今回の災害で何が起こったのかを学び、自分に何か起きたときに応用を利かせるということが大切であり、そうすることで被災者や被災地のことを自然と慮るようになります。

立命館校友には、全国各地で行政に関わる人たちがたくさんいますね。大災害を乗り越えるため必要なことは、ひとえに「誠実」な姿勢・思いだと思います。貝原知事は震災時、「県土の一木一草まで知事の責任です」と言っていました。この言葉は、県民が大変な思いをして生きている時に、知事は何が起きても責任をもち誠実に対応しなければならぬという職責を表現したのですが、これはそのまま、リーダーや行政に携わる者に求められる基本姿勢だと私は考えます。

復興の各パートにおいてリーダーを務める人たちには、

基本姿勢は被災者のために、特に災害弱者への配慮を持つこと、謙虚に人の意見を聞くこと、先例にとらわれないこと、果敢に決断すること、すぐ実行することを強く求めたいと思います。リーダーには、「今の実態を直視すると、これが正しいはずだ」という信念のもと突き進むべき時があるはずです。

最後に被災者のみなさんへ。私は、神戸で大震災を経験した身でありながら、今の東北地方の状態を目の当たりにすると言葉を失います。しかしながら、復興・再生への思いを込めて、私達が「阪神・淡路」震災復興に取り組む過程で啓示を受けた、西ドイツ経済を「驚異の復興」に導いた故ルードヴィヒ・エアハルト首相が語った言葉を紹介します。

金がなくなっても何もなくなる

やる気がなくなったら多くがなくなる

誇りがなくなったらすべてがなくなる

震災直後の極度の緊張状態が徐々に解けるとともに、体調を崩しやすくなります。くれぐれも気をつけて。頑張りましょう、私たちも共に頑張ります。



### 編集後記

## 「辻寛会長への取材を終えて思うこと」 立命館大学校友会広報委員 加藤美佐子

ライトが徐々に消えて真っ暗になった。寸毫の光もない闇はそれだけで恐怖だ。息を呑み、前の手すりを握りしめる。やがて、日時と場所のクレジットに続いて、倒壊、崩壊の、16年前に起きた現実の映像が、次々に3面の大きなスクリーンに映し出される。地響きをあげ高いビルが折れる。一瞬にして民家が崩れる。橋が裂け、高速道路がうねり、ひきちぎられる。際限なく続く長い長い時間に思えた。明るくなってもしばらくは呆然として緊張が解けない。あの暴虐から逃げることは不可能だと、絶望的な思いが身体に浸透した。

辻会長はインタビューに先立ち、私たちを「阪神・淡路大震災記念・人と防災未来センター」に案内してくださった。入館して先ず体験するのがこの「1.17シアター」だ。たった7分間の映像が、その後の膨大な展示資料に向かう私の気持ちを、鋭く、強くしてくれた。

インタビューの中で辻会長が言われた「まず、異常時であるという認識を持ち、平時の論理を振り回してはいけない」ということを、私たちは最も心しなければならぬ。地球上に生きて暮らしている限り、地球の活動から無関係でいることはできない。被災する可能性が誰にでもあることを思うとき、生活の

中で恒常的に防災・減災を考えていかなければならない。エネルギーの問題、消費のあり方など、生き方を見直さなければならないということだろう。

「がれきの中から創造的復興、21世紀文明の創造への貢献を目指して」今も努力が続けられている社会長たちの熱く深い思いは、必ず東日本大震災の復興に繋がっていくと信じている。「やるべきことを最大限、やるだけ」社会長の言葉は、私たちの指針でもある。





## 震災を経験した 学生からの メッセージ

# 小さなアクション一つでいい、 その一歩を踏み出して

渥美 勉 さん（産業社会学部5回生）

2011年3月11日、渥美勉さんは春休み中に帰省した宮城県仙台市の実家で被災しました。「伝える機会に恵まれた自分には、伝えるべき義務がある」と、地震発生からこれまでの間の様々な思いをありのままの言葉で語ってくれました。



Tsutomu Atsumi

### なにも感じられない「感情のない」日々

地震があったのは、自宅で遅めの昼食をとっていた時。かつてない強さで、長い揺れに、頭の中が真っ白になりながら部屋がめちゃくちゃになる様子を見ていました。揺れが収まって外を見ると、呆然とした様子で屋外に出てきた人たちの姿がありました。そうしていると、すぐそばにある名取川の方から静かに津波が押し寄せてきた。音もなく変わっていく景色を言葉に出来ない思いで見つめていました。

発生後3日目に町の様子を見に行くと、数百メートルしか離れていない実家のある場所とはまったく違う光景が広がっていました。4日目、テレビで延々と報道される地震のニュースに、初めて被害の状況を理解しました。水、食べ物、目の前のことで必死なまま、一日々々が過ぎていきました。

### 考えるより、動き出そう

しばらく経つと、「自分はなんて無力なんだろう」と悩む日が続きました。ボランティアをすることも、仕事を通して社会に貢献することもできない。何かしたくても出来ない、空白の時間が心を蝕みました。新学期が始まるため地元を離れる時は、故郷を見捨てるかのような後ろめたい気持ちでした。

そんな日々の中で見つけた答えは、「どうすればいいのか分からないなら、動きながら考えるしかない」ということ。今までの考えが通用しないことを震災で身をもって知ったからこそ、行動しながら答えを探していこうと思い至りました。最初は震災体験を話すことにも罪悪感を覚えていましたが、

次第に、話す機会に恵まれた自分の幸せを思うようになりました。行動を重ねることによっていろんな感情が解きほぐされてきたように思います。これからも、間違ってもいいから行動を起こし、みんなと考え、被災地の力になれることを探し続けたい。

### 情報提供プラットフォーム

#### 「311+Rnetカフェ（仮称）」を始動

大学では、立命館大学震災支援活動情報ネットワーク「311+Rnet」が立ち上げられ、その活動の一つとして「311+Rnetカフェ」という企画を先日からスタートさせました。これは、衣笠キャンパス内サブウェイ横の空きスペースに、震災関連の情報提供の場を作るというもの。震災後、何かしたいと思った人が一歩踏み出そうとする前に立ちはだかる「情報の不足や過多」といった障壁を解消するのが目的です。支援団体の活動状況を写真展で紹介したり、現地ボランティアの情報を大型ディスプレイで閲覧可能にしたり。相談スペースも設置して幅広く情報を提供します。「立命館大学」をキーワードに、学生の枠を越え、校友の皆さんをはじめ、様々な人が集う「プラットフォーム」にしていきたいと思っています。

これからもこの震災を忘れないでほしい。そしてなにか一つ行動を起こしてほしい。「関心を持つ」から一歩踏み込んで、「見守る」よりも少し近付いて。その行動は、被災した人たちにきっと伝わります。

## 被災地の校友からのメッセージ

震災に教えられた  
大切なものを次世代に

## 岩手県

岩手県校友会事務局長  
酒井博忠さん（75文）

全国校友の皆様への力強いエールとご支援に心からお礼申し上げます。  
私は、盛岡市で森林・林業関係の業界地方紙を発行しています。  
県内陸部の盛岡市は津波による被害はなく、揺れの割には大きな被害はありませんでした。

震災時にいたのは、取材で出向いた岩手大学のビルの2階。激しい揺れと同時に県内全域が停電、平和な日々が一変した瞬間でした。その夜は、寒い部屋でロウソクを点け、妻と二人でラジオに耳を傾けていました。「沿岸地域が壊滅状態です」というアナウンサーの声は、現実とは思えない遠くの話のようでした。

電話が通じるようになると、沿岸部の校友の安否を問い合わせる電話が鳴りました。しかし沿岸部は壊滅状態で連絡がつかず、ネットで数名の無事を確認するのがやっとでした。仕事柄、沿岸部のほとんどの市町村を回りましたが、現地はテレビなどで見るのとは大違いの惨状で、何も出来ない自分の無力さを感じるばかりでした。

5月半ばには、沿岸部在住の校友35人に被災状況の調査票を郵送しました。「家族を亡くした」「住宅等すべてを流失した」と、寄せられた回答にあらためて心を痛めています。しかしその中で、「被災直後から、全国の校友から見舞いの連絡を受け感謝している。卒業後30年を経ても、青春期を共に過ごした友人たちとの絆を今更ながら強く感じている」との一文を読んだ時には胸が熱くなりました。

この大震災により東北は多くのものを失いました。しかし一方で、忘れかけていた大切なものを教えられた気もしています。津波の体験と共に、その大切なものを次世代に繋ぐ大きな役割を担ったと、私は考えています。

時間はかかると思いますが、必ず東北はよみがえります。どうかいつまでも東北を忘れることなく、末永いご支援、ご協力をお願いします。

震災後変わった  
街の空気

## 宮城県

宮城県校友会幹事  
佐藤 剛さん（80法）

5月最後の土曜日、仙台市・市役所前広場で、仙台三桜高校合唱部のミニコンサートが開かれました。明るく元気な部員たちの清らかで美しいハーモニーに大きな拍手が送られていました。

同合唱部は、市民の笑顔を取り戻そうと、毎週チャリティコンサートを開催しています。震災後、仙台ではこうした小さなイベントが街のあちこちで盛んに行なわれるようになりました。

いま、市の中心部は以前とほとんど変わらない様相を取り戻しています。「3月11日」の長く大きな揺れにも関わらず、目立った被害は見られません。発生から3日目頃までに電気、その数日後に水道が復旧。4月中旬には、ガスもほぼ市内全域で復旧しました。スーパーなど、ほとんどの店舗は4月初めまでに再開しています。

それでも震災前と後では、街の空気が少し変わったような気がします。「困った人がいたら助けてあげよう」「何かできることがあれば手伝おう」「家族や仲間を大切にしよう」という気分に溢れているように思うのです。

私は仙台市の職員として、津波による被災者が収容された高校の体育館で、約1カ月間、避難所の運営を手伝っていました。避難所が閉鎖された4月9日、避難者の方々は、早朝から総出で清掃を行ない、「お世話になりました」と挨拶して別の避難所に移動して行かれました。

街のいたるところに「がんばろう東北」、「がんばろう仙台・宮城」といったステッカーを見ることができます。その一方で、家族を失った悲しみから立ち直れないまま、何をどう頑張れば良いのか分からないという人もいます。私のこの投稿は、本当にひどい状況に置かれている方々の声を反映していないのではないかと危惧します。

復興はこれからが本番です。今後とも東北・宮城・仙台への応援をお願いします。

## 被災者に勇気と希望を 与える「仕事」を

福島県校友会幹事長  
**三村智春**さん（'85産社）

# 福島県

福島県は地震、津波の被害に加えて「原発事故」、「風評被害」という四重苦に苦しんでいます。東電第一原発のある双葉郡や周辺自治体からは、京都市南区の人口に匹敵する約10万人の住民が県内外に避難を余儀なくされています。校友の中にも、この地域から離れ、厳しい日常に耐えている方々がいます。東電と政府には、避難している方が一刻も早く自宅や職場に戻れるようにしてもらいたい。これは全国民の願いです。

県内在住の校友も、警察、消防、自治体、教職員や各企業人の立場で、震災直後から昼夜を問わず、今も必死になって復興に取り組んでいます。全国からも、自衛隊、警察、ライフライン、医療、ボランティアなど様々な方がかけつけて支援して下さいます。校友の皆さんの中にも県内で活動された方がいらっしゃるかもしれません。被災者の気持ちになって懸命に職務に取り組んで下さり、感謝の気持ちで熱いものがこみ上げてきます。この間、全国の校友からも安否を気遣う電話や支援物資を頂きました。とても感謝しております。

校友会の活動は、非常時にはその意義が問われます。連帯と被災校友への支援、励ましが重要だと考えています。全国の校友の皆さんにお願いしたいこと、それは継続した支援です。被災した私達に勇気と希望を与えてくれるのは「仕事」です。福島県産品を購入し、落ち着いたらぜひ観光で訪れてみて下さい。県内に知り合いがいれば、時々、手紙や電話で励まして下さい。たとえ愚痴でも聞いてもらえると心が癒されます。私達も、いつまでも落胆してはられません。行く手には様々な困難が待ち受けていますが、必ず復興させ、全国の皆さんの願いに応えなければなりません。今後ともよろしくお願い致します。

## 立命館学園における震災の影響と 復興支援にかかわる取り組みについて

立命館学園では、地震発生直後から緊急対応に取り組むとともに「東日本大震災関連特別検討プロジェクト」と「災害復興支援室」を立ち上げ、学内外で東日本大震災の復興支援に取り組んでいます（関連記事をP.26に掲載）。学生（今春入学予定者含む）・生徒・児童・教職員の安否確認では、幸いにも全員の無事を確認することができましたが、東北地方出身者を中心として、家族の死亡、実家家屋の喪失など、深刻な被害を受けた学生が一定数にのぼっています。学園においては、学費減免・奨学金・災害見舞金など各種制度による経済援助のほか、休学・就学に関する特別措置を講じるなど、被災学生の学業継続の全面的支援に取り組んでいます。

しかしながら、家計・学費負担者の収入途絶など、既存の学内制度枠内の支援だけでは学業を継続することができなくなる学生が、5月末時点で約40名在籍していることが明らかになっています。一方、自主的にボランティア組織を立ち上げ、学内外で義援金募集や被災地と連携した活動を行なう学生も数多く存在しています。

このような状況を受けて立命館学園は『立命館災害復興支援基金（復興+R基金）』を設立し、被災学生の生活支援と継続的な学業保証、学生によるボランティア活動の支援などを行なうこととしました。その財源は、学内教職員・学園関係者を中心とする寄付により確保する予定です。

学園による復興支援の詳細は<http://www.ritsume.ac.jp/rs/20110311/>でご確認ください。

### 『立命館災害復興支援基金（復興+R基金）』

被災学生支援金	被災学生の生活と学業継続を支援
復興活動支援金	学生ボランティアなどの活動を支援

この基金についてご関心をお持ちの方は、  
学園窓口までお問い合わせください。

立命館社会連携課 TEL:075-813-8110  
E-mail: fukko@st.ritsume.ac.jp

# +R なる人

## 被災者の気持ちを 知ることから支援は始まる

2003年立命館大学政策科学研究科博士課程後期課程修了。博士（政策科学）。NPO法人京都シルバーリング事務局職員、立命館大学ボランティアセンター主事、立命館大学ボランティアセンター助教授等を経て、2007年4月より現職。専門は福祉社会学、組織社会学。



避難所の子どもたちと一緒に

### 桜井政成 政策科学部准教授

東日本大震災後、復興支援活動や、震災に関する情報共有を積極的に行っている桜井先生。5月3日～4日にかけて、被災地である仙台市を中心に京菓子とお茶を持参し、配布する活動を学生12名と共に行いました。今、被災者の求めていることや必要とされる支援など、被災地で経験したことを伺いました。

#### 今回、被災地で支援活動を行われたきっかけは何ですか。

4月の中旬、東日本大震災に遭った学生に授業で話をしてもらいました。学生たちに被災地の状況を伝え、何かできることを考えてほしいと思ったからです。しかし、聞いている学生の反応は鈍く、東北や関東の学生と関西の学生では、震災への理解や、気持ちに差があることを実感しました。これからの日本を創る学生たちが震災に関心を持たなければならない。そのために、被災地を体験した学生が旗振り役となり、学生の意識を変えていってほしいと考え、学生と一緒に被災地に行くことを決めました。

#### 京都のお茶やお菓子を支援物資として 持参した理由を教えてください。

被災地の市民団体から、「今はおいしいお茶が飲める機会がないので、京都のお茶やお菓子があると嬉しい」との要望がありました。そこで、政策科学部の研究でお世話になっている企業をお願いしたところ、煎茶・ほうじ茶100袋と、京菓子300個を無償で提供していただきました。また、現地まで

の移動は、政策科学部同窓会「洋洋会」から補助をいただき、バスを運行することができました。

#### 避難所での支援活動の様子を教えてください。

学生たちは避難所でお茶とお菓子を配りながら、被災地の方々が抱える悲しみや憤りを聴いてまわりました。その結果、各々が被災者の気持ちを受け止めた責任を感じ、自分たちにできる支援を考えるようになっていました。お茶とお菓子が一時の癒しを与え、被災者と学生との心をつなぐ媒体となったのです。

#### 先生が支援活動で大切だと思われることは何ですか。

被災地の方からいただいた印象的なお言葉があります。「がんばって」という言葉は突き放された冷たい感じがする。「負けないで」と言ってほしい。物理的な支援活動だけでなく、そういう被災者の気持ちを知るところから支援は始まるものだと思います。

#### Voice ▶ 井田彩葉さん 政策科学部2回生

最初、お茶を持っていくと聞いたときは驚きました。支援活動とは被災した住宅を片付けたり、泥かきをするものと思っていたからです。しかし、お茶を配って、お話をすると被災地の方々がとても喜んでくれました。物資などハード面での復興だけでなく、人の心のケアなどソフト面での支援も十分ではなかったのです。自分が被災者のことを理解できていなかったことに気がきました。

今後は、被災地で見えたこと、感じたことを伝えていきたいと思っています。例えば、被災地では体育館が避難所になっていて、スポーツができない学生がたくさんいます。被災地の学校と交流試合を設けることも一つの支援だと思います。周りの学生と共に、大学でできる支援を提案していきたいです。



# 遠隔地からできる支援を行う ITを活用した情報交流を促進

**柳瀬 顕** さん 文学部5回生

4月に立命館大学震災支援活動情報ネットワーク(311+Rnet)が立ち上がりました。支援活動を行いたい学生への情報提供・情報交換などを行う場として活動の幅を広げています。その中で、ソーシャルメディアを使った後方支援を行う柳瀬さん。情報を介して人の気持ち、行動、記憶をつなぐ支援をしたいと話す彼に、活動への想いを伺いました。



## 東日本大震災後、いち早く支援活動に 取り組もうと思ったきっかけを教えてください。

2008年にミャンマーでのサイクロン、中国・四川省の大地震が起こった時、復興支援活動に関わりました。

例えば、自分の友人が一人亡くなっても悲しいのに、被災地の人ほどどれだけ辛い状況なのだろうと想像すると、自分も何かできる支援を行いたいと思いました。そこで、学食でミャンマーや四川の料理を提供してもらい、売上の一部を被災地へ送る取り組みを大学生協と協力して実施。遠く離れていても、食事を通じて被災地に想いを馳せることができれば、災害を「自分のこと」として捉えることができ、支援は広がっていくと感じました。この経験を東日本大震災で役立てたいと思ったことがきっかけです。

## Facebookやtwitterを使って 支援サイトを立ち上げられた理由を教えてください。

支援活動は被災地でおこなうものであり、遠隔地では十分にできないという常識を変えたいという気持ちからです。そのためには、支援を求める人と、支援をしたい人が双方向にコミュニケーションをとれる情報基盤を作る必要があると考えました。また、立命館大学には36,000人以上の学生、多くの先生、卒業生がいて、これだけのソリューションを行える(解決に向けて様々な分野の人々が協働して動ける)可能性を持った組織は他にはありません。ソーシャルメディアを通じて大学内外で情報交換が活発になれば、大きな支援につながると思いました。



先日、Facebookを通じて理工学研究科の学生から、「マイクロ水力発電機が余っているので、電気が復旧していない被災地の役に立てないか」との相談がありました。そこで、被災地と連絡を取り合い、設置することが決まりました。こういった311+Rnetを基盤とする情報のやり取りが学生、卒業生、APU、そして学外に広がっていくことを目指しています。

## 今後、柳瀬さんが取り組みたい活動はありますか。

将来、被災地の復興が進むと、新たな街や社会が生まれます。その中で、被災前のその場所にはどういった人がいて、どんな生活を行っていたのかなど、場所の記憶を映像やwebを使ってアーカイブ化し、次の世代に伝えていく活動をしたいと考えています。地域を知り、歴史をつないでいくことが防災であり、また同じ土地に住む人の心の支えになるのではないかと考えています。



## 最後に校友のみなさんにメッセージをお願いします。

是非、311+Rnetの支援サイトをご覧ください。そして様々なご意見をいただければと思っています。社会の多方面で活躍されている校友の方々と学生、そして立命館大学と一緒にできれば、大きな支援の力になると信じています。

- 311+Rnet Facebook  
<http://www.facebook.com/pages/311Rnet/213900625288342>
- 311+Rnet ウェブサイト  
<http://www.ritsumei.ac.jp/rs/311plusr/>

# 滋賀県

滋賀県校友会会長

柗 勝次さん(63法)

2008年6月就任

## 学生時代のお話を聞かせてください。

柗 ● 私が受験生だったのはまだテレビがない時代。大学に関する情報源といえば、ラジオか新聞、あるいは受験雑誌『蛍雪時代』で、その『蛍雪時代』に「(法学における)関西の雄」として紹介されていたことから、法学部志望の私は立命館への進学を決めました。戦後、立命館では末川博氏が総長に就任し、リベラルな教育理念を掲げて様々な改革に着手していました。末川総長の理念に共鳴した私は、「ここだ!」と立命館大学を専願受験。結果、期待



柗会長

## 滋賀県校友会

設立:1980年  
会員数:13974名(2010年5月現在)  
総会時期:例年6月  
総会参加者数:約60名



\*(社)びわこビジネスビューロー

放課後、御所で(写真中央が柗会長)



通りに充実した学びを得ることができました。

大学で入ったサークルはユネスコ研究会。平和の原点は教育文化から始まるというユネスコの趣旨に則った研究会です。安保闘争が激しい頃だったので、敗戦後の日本はどのようにして立ち直っていくのか、理想の国とはどんなものなのかと、毎日とにかく真面目に議論していました。ゼミでは「会社法」を学びました。ゼミが終わると広小路学舎隣の御所に行き、芝生の上で「唯物」か「唯心」か、「宗教とは」「芸術とは」と一角の議論をし、それが夜はキャベツと塩を肴に、茶碗酒を交わしての議論に変わりました(笑)。私生活でも学校生活でも、いつも活発な議論をしていました。純真で一途な時代だったと思います。

当時大学に進学するということは、親の期待をたくさん背負っていたもの。その分、将来に生かそうと真剣に学びました。今の学生にはない、重荷を背負ったがゆえの幸せだったと思います。おかげで就職難の時代に地方銀行の入社試験に1回で合格することが出来ました。品行方正とは程遠い私が銀行員になることに周囲は驚いていましたし、自分でも続かないかもしれないという思いがありました。しかし、新人研修で受けた一先輩の教えは「型に入って型を破れ」。まさに立命館の精神に通じるものでした。質実剛健な立命館スピリットは、どこにいてもゆるぎないものだと思信しました。

## 滋賀県校友会の現状とは?

柗 ● 当会の目下の悩みは、校友の数が多きがゆえにかえってつながりが希薄になってしま

昨年の総会の様子



うことです。校友への連絡方法、会費問題ということさえ苦勞の現状です。このような状況をふまえて、現在、いろいろな改革を目指しているところです。若手校友が積極的に参加し、彼らの発言が生きるように、卒業年次ごとのリーダーや、女性のリーダーなど、まず活動の芯になってくれる人の発掘に取り組んでいます。

私が校友会活動へ参加し始めたのは1980年頃。会員にはライバル社の社員も多かった。そんなライバルたちとも、飲んで(笑)、議論をすることで、つながりが深まるというのが校友会の魅力。目指すのは、会則の『母校の発展を期し、あわせて会員相互の親睦を図ることを目的とする』に尽きますが、「学び舎(や)が同じ」という共通点を持つ仲間が、肩肘張らずに気楽な交流ができる場にしていければと思っています。

## 近畿2府4県が中心となって、

10月に開催される

「オール立命館校友会大会2011in京都」。

開催への意気込みを。

柗 ● このほど、東北、関東地方を中心に広範囲にわたって災害に見舞われた東日本大震災もあり、様々な課題を背負っての開催です。参加者全員が共感を得られるものにするのが何より求められますが、開催のコンセプトを明確にして、とりわけ「地方のお祭りさわぎ」のような感覚に陥ることなく、少子化の時代だからこそ求められる「アカデミックな学園」としての位置づけとなる大会にしたいですね。

# 富山県

富山県校友会会長

坪井 新一郎さん（'58理工）

2000年6月就任



坪井会長

## 富山県校友会

設立:1950年頃  
 会員数:1600名(2011年4月現在)  
 懇親会時期:隔年6月  
 総会参加者数:約80名



\* (社) 富山県観光連盟

仕事などで活用させています。個々の校友同士がしっかりとつながっているのです。

県内にいる校友の数はおよそ800人。まだまだ活動の幅を広げていけるはず。若手の集まりをさらに増やし、女性校友の活動を活発化させるため、今後はPR方法を検討していきたい。「普通どおり」に、あまり力を入れすぎず、着実に活動を発展させていきたいですね。

平成7年の会報「りつめい」の中で、当時の大南総長が「大学には品格が必要である」とおっしゃっています。立命館が、厳しい自己点検と評価を行ない、高い水準の政策力と組織力をもって21世紀の新しい普遍的価値の創造に貢献できる大学となることを願っています。

9連覇中の「関西6大学OB・OGゴルフ大会」  
 (前列右から3人目が坪井会長)



は5、6人ぐらいが集まって、年に1度くらいのペースで会を開いていました。その頃OBの数はまだ少なく、日常生活で出会うことはあまりなかったのですが、たまたま参加した校友会で税理士や市長、弁護士など様々な職業の方に出会い、多方面で校友が活躍していることを知りました。

前会長から次期会長を頼まれた時には、いろんな責任を伴う大変な役割であることを認識しつつ、とにかくやってみようと思ってきました。会長に就任して11年目。会を率いる校友会長として一番必要なのは、母校への愛と誇りを持つことだと信じています。

## 富山県校友会の特徴とは?

坪井●特徴は、組織の雰囲気がアットホームなこと。そのため、なにかイベントを催そうと声をかけると非常に集まりが良いのです。県では毎年、「関西6大学OB・OGゴルフ大会」を開催していますが、その中で一番まとまりがよいのは立命館。団結力の強さで、現在9連覇中です(笑)。この強さは、母校への愛情の強さの表れでもあると思っています。

当会では、毎月第3金曜日、名鉄トヤマホテルで「立命サロン」を開催しています。これは気楽に集まって、自由に話をするための場。いつも15人ほどが参加しています。無理に全体で集まろうとするよりは、普段のつながりを親密にしていきたい。校友会活動をそれぞれの目的に応じて活用してもらいたいのです。2年に1度の総会では、そこで出会った校友たちが個別にグループを作り、そのつながりを各自の

昨年の総会の様子



## 立命館での学生生活はどのようなものでしたか?

坪井●立命館に進学したのは、当時知り合いだった先輩に、「京都の大学に行くなら末川先生がいる立命館がいい」と言われたことがきっかけ。専攻の数物科では、関数や代数を理論的に研究していました。クラスメイトは15人ぐらいで、同郷の富山や、北海道、長野、東京、島根、沖縄など日本各地から進学してきた学生でした。実習重視のため、授業はしっかり出席し、家では必ずその日学んだことを復習。けれど遊ぶことにも一生懸命。当時の学生は勉強も遊びも真剣でした。

私が学生だった時代は、お金がなくなると友達を頼ったもの(笑)。そのかわり、友達が困っている時はちゃんとお返しをする。「困った時はお互い様」と、皆が自然に助け合っていました。外出先でたまたま知り合った人が立命館の先輩で、私たちが後輩だと分かるごちそうして下さったこともあり。教授と学生との距離も近く、レクリエーションを一緒に楽しむことも珍しくありませんでした。友達、先輩、先生と、強いつながりがあった。良き時代でしたね。数物科のクラスでは、今でも毎年京都で同窓会を開催し、思い出話で盛り上がります。

## 初参加時から現在まで、校友会活動へのお気持ちを聞かせてください。

坪井●校友会に参加し始めたのは、卒業後1年ぐらいが経った頃でした。初めて参加した時の印象は、「家族的だなあ」ということ。当時



# 2011年度 校友会幹事会報告

6月4日(土)14時半より、立命館朱雀キャンパスにおいて2011年度幹事会が開催された。今回の幹事会は、新役員体制(2011~13年度)となつて初めての開催で、校友会三役(会長・副会長・監事)・常任幹事・監事の約280名が全国より参集した。

議事に先立ち山中中学校友会長は、同日幹事会前に開催された第2回常任幹事会において、①「東日本大震災復興支援特別委員会」を設置すること②校友会予算拠出に基づく復興支援の展開と義援金募集の継続③校友会としての復興支援にかかる声明を発信すること―について、常任幹事全員の賛同を得たことを報告し、幹事会においても賛同を求めた。出席者は全会一致でこれを了承し、立命館大学校友会東日本大震災復興支援声明「東日本大震災復興・再生のために」が公表された(下記参照)。また、岩手県校友会菊池宏会長、宮城県校友会下村泰雄会長、福島県校友会三村智春幹事長がフロアよりスピーチを行ない、それぞれの地域校友の被災状況や、震災後全国の校友より寄せられた支援や励ましに対する謝意、今後の継続的支援の要請を述べた。

その後、5件の報告に加え5件の事項を審議(右記項目参照)し、議事終了後は立命館川口清史総長が「学園ビジョンと中期計画R2020」についての報告を行なった。

## 報告事項

常任幹事会にて審議・承認された以下の事項につき報告が行なわれた。

- 校友会役職者(2011~2013年度)について
- 2011年度立命館大学校友会新卒幹事について
- 「オール立命館校友大会2011 in京都」開催概要
- 「オール立命館校友大会2012 in新潟」進捗状況
- 「立命館大学校友会活動活性化プラン」に関する報告

## 審議事項

以下の事項につき審議が行なわれた。

- 2011年度立命館大学校友会推薦校友の承認
- 学校法人立命館評議員候補者の推挙
- 2010年度立命館大学校友会事業報告および2011年度事業計画案
- 2010年度立命館大学校友会決算報告、同監査報告、および2011年度予算案
- 立命館大学校友会会則一部改正について

全ての審議事項について承認を得た後、立命館川口清史総長より「2020年に向けた立命館学園新展開に関する説明」が行なわれた。

### 【2010年度決算】

●収支決算書(2010年4月1日から2011年3月31日まで)

＜収入の部＞		＜支出の部＞	
科目	決算額	科目	決算額
会費収入	241,995,000	組織強化事業支出	73,678,442
資産運用収入	577,392	校友大会事業支出	67,991,716
組織強化事業収入	1,601,500	奨学金事業支出	5,300,000
校友大会事業収入	17,494,000	広報事業支出	69,987,829
広報事業収入	25,637,292	人件費支出	23,764,331
その他の収入	2,722,833	運営費支出	27,311,292
前期繰越収支差額	56,069,484	校友会基金積立金支出	20,000,000
収入の部合計	346,097,501	次期繰越収支差額	58,063,891
		支出の部合計	346,097,501

●貸借対照表(2011年3月31日現在)

＜資産の部＞		＜負債・正味財産の部＞	
科目	決算額	科目	決算額
現預金	58,105,176	預り金	71,000
立替金	29,715	校友会基金積立金	1,095,434,947
基金積立金預金	1,095,434,947	運用財産	58,063,891
合計	1,153,569,838	合計	1,153,569,838

(注記) 2011年度予算より収支決算書の書式を変更しているため、2011年度収支予算書「前期繰越収支差額」と2010年度収支決算書「次期繰越収支差額」とは一致しない。その差異要因は次のとおりである。

(2010年度収支決算書「次期繰越収支差額」58,063,891円)+(2010年度末「立替金」△29,715円)+(2010年度末「預り金」71,000円)=(2011年度収支予算書「前期繰越収支差額」58,105,176円)

### 【2011年度予算】

●収支予算書(2011年4月1日から2012年3月31日まで)

＜経常収入の部＞		＜その他資金収入の部＞	
科目	予算額	科目	予算額
会費収入	240,660,000	校友会基金取崩収入	170,000,000
資産運用収入	27,000	前期末前受金	△238,860,000
組織強化事業収入	1,300,000	その他資金収入合計	△68,860,000
校友大会事業収入	13,500,000		
広報事業収入	25,400,000	＜その他資金支出の部＞	
その他の収入	150,000	その他の支出	9,690,000
経常収入合計	281,037,000	前期末払金支払支出	16,261,556
		期末未払金	△17,200,000
＜経常支出の部＞		その他資金支出合計	8,751,556
組織強化事業支出	61,030,000	その他資金収支差額	△77,611,556
校友大会事業支出	40,000,000	当期収支差額	△25,634,556
奨学金事業支出	5,350,000	前期繰越収支差額	58,105,176
広報事業支出	73,160,000	次期繰越収支差額	32,470,620
人件費支出	22,000,000		
運営費支出	27,520,000		
経常支出合計	229,060,000		
経常収支差額	51,977,000		

## 『東日本大震災復興・再生のために』

このたびの東日本大震災によって尊い命を奪われた皆様のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。日本はこの大震災により、大きく深い傷を負いました。立命館校友や現役学生においても、深刻な状況に直面しています。しかしながら、ただ途方に暮れるだけではなく、被災地を中心とする日本の復興・再生に向けて、わたくしたちは、力強く、前に進んでいかなければなりません。いかなる艱難辛苦があろうとも、ともに手を携えて乗り越えていくことがいまを生きるものの使命であります。わたくしたち立命館大学校友会は、参加する多様・多世代校友の英知や厚志を結集し、被災された校友・現役学生に対してあたたかい支援を行なっていきたいと思っております。そして、社会全体の復興・再生に貢献するために校友会をあげて全力を尽くし邁進していきます。

2011年6月4日立命館大学校友会 幹事会 一同



## 校友会本部役員

会長	山中 諄	65 経済	南海電気鉄道(株) 代表取締役会長兼CEO
副会長	布垣 豊	61 法	京都中央信用金庫理事長
	西村 隆	63 法	前・びわ湖放送(株)代表取締役社長
	飛鳥井雅和	64 法	(有)ASUKAI企画取締役
	高嶋 秀夫	67 法	(株)京都銀行代表取締役頭取
	住野 公一	70 経済	(株)オートバックスセブン相談役
	村上 健治	70 産社	大和ハウス工業(株)代表取締役副会長
	福元 寅典	72 経済	前・(株)南日本新聞社専務取締役
	林 幸雄	73 産社	(株)電広エージェンシー代表取締役社長
	佐藤友美子	75 文	サントリー文化財団上席研究フェロー
	肥塚 浩	87 院経済	立命館総長特別補佐
監事	高橋 英幸	69 経済	立命館一貫教育部担当部長
	佐竹 力総	70 法	(株)美濃古代表取締役社長
	鈴木 治一	91 法	弁護士

## 常任幹事

中村 和歳	61 文	水田 雅博	76 経済
佐伯 希彦	63 理工	加藤美佐子	77 文
岸野 洋	64 法	小幡 豊	78 経済
村岡 治	64 理工	初村 雅敬	78 経済
坂口 博翁	71 院文	佐野 哲夫	82 経済
辻 淳夫	66 経済	村上 高久	03 院政策
本津 絢子	67 経営	竹内美奈子	83 法
渡辺 三彦	68 理工	山岡 祐子	83 経済
穴吹 学	71 経営	山添 祥統	86 経済
北尾 陽	71 経営	小原 隆治	87 法
山下 勇	72 理工	恒吉 孝司	95 経済
山本 啓幸	73 理工	野口 智久	98 経営
奥田 直幸	75 経営	林 夏音	99 国際
柴田 晃	02 院政策博後	板井 亜希	07 院法
折戸 優兒	76 産社		

## 専門委員

総務委員会	担当副会長	飛鳥井雅和	64 法
	委員長	佐野 哲夫	82 経済
	委員	有田 嵩	58 法
		荒木 敏	59 理工
		西村 義行	60 経済
		佐伯 希彦	63 理工
		山下 勇	72 理工
		木村 保和	75 経済
		三上 宏平	77 法
		木村 武志	80 理工
		青柳 良明	82 文
		村上 高久	03 院政策
		小倉 大岳	88 経営
		高橋 拓児	91 法
		篠田 哲哉	93 経営
		山本 徹	95 法
		姫野 直人	97 産社
		大前 美郎	99 法
		大倉 昌子	01 法

総務委員会	委員	小澤 拓己	03 理工
		河原 真弓	03 経営
		板井 亜希	07 院法
		宮川 友子	05 法
		金田 美波	06 産社
		梅野 毅	09 法
		原田 育子	09 文
		山本 均	09 政策
		村上 健治	70 産社
		渡辺 三彦	68 理工
財務委員会	担当副会長	村上 健治	70 産社
	委員長	渡辺 三彦	68 理工
	委員	本津 絢子	67 経営
		重松 英樹	74 経営
		松田 全功	10 院経営
		嵯峨 法夫	75 法
		西川 哲也	93 法
		恒吉 孝司	95 経済
		豊田 耕三	01 文
		藤井久美代	07 国際

広報委員会	担当副会長	福元 寅典	72 経済
	委員長	中村 和歳	61 文
	委員	田中保太郎	67 経済
		仲 治實	69 経営
		加藤美佐子	77 文
		小幡 豊	78 経済
		高橋 英子	78 産社
		宮西 徳明	81 法
		山岡 祐子	83 経済
		安達 正哉	84 法
		日下部和弘	85 法
		西村 仁	06 院経営
		森 力	95 経済
		乾 光孝	97 文
		加藤 良直	99 経済
		人見 勅輔	02 法
		榎本 暁子	03 国際
		新賀 和子	06 産社

## 2011年度 新卒幹事

法学部	西岡 綾
経済学部	香川 領兵
経営学部	黒澤 健
産業社会学部	岡本詠里子

文学部	藤 由加里
理工学部	高松 祐基
国際関係学部	樫根 亮
政策科学部	西岡 優希

情報理工学部	新川 琢也
映像学部	大矢 侑輝

## リコネクト企画、Ustreamで動画配信中!

2月5日(土)、リコネクト東京主催の学術系セミナー「ソーシャルネットワークの行方」が東京キャンパスで行なわれた。50名が参加し、大いに盛り上がった。

初めに、中村彰憲映像学部准教授(現・教授)がソーシャルネッ



■ 写真①



■ 写真②

トワークを学術的に講義=写真①。その後、頓智ドット(株) CEO 井口尊仁氏('87文)=写真②、(株)ミクシイ経営推進本部広報IRグループマネージャー 徳田匡志氏('04経済)、(株)ショップエアライン 笠松太洋氏('10APM)の3名が加わり、パネルディスカッションが行われた。井口氏と徳田氏がそれぞれにプレゼンし、開発・工法・ユーザーの立場からソーシャルネットワークの今と未来について話題を展開。参加者は、終了後の意見交換会で親交を深め、互いのネットワークを広げていた。

今回の企画は、動画配信サイトUstreamで録画映像を配信しています。

<http://www.ustream.tv/recorded/12472984>

[twitter](http://twitter.com/Reconnect_Tokyo) [http://twitter.com/Reconnect\\_Tokyo](http://twitter.com/Reconnect_Tokyo)

## しがぎん南草津駅前支店で「立命館コーナー」

JR南草津駅前の滋賀銀行南草津駅前支店ロビーで、立命館大学アメリカンフットボール部バンサースの展示が本年2~3月の約2カ月にわたって設置された。

昨年末の「甲子園ボウル」でバンサースが学生日本一に輝いたことにちなみ、「草津をホームタウンとして様々な舞台で活躍している立命館を、地域の方にもっとよく知ってもらいたい」と藤居恭一同支店長が企画。バンサースの試合が取り上げられた新聞記事や、チームガイドブック、選手が着ていたユニフォームなどが展示され、来客が展示に見入る姿も見かけられた。

「当店、学生、そして地域をつなぐ『三方よし』を願って、今後も学生たちの活躍を応援していきたい。いずれは立命館を発信するコーナーを常設できれば」と藤居支店長は話していた。



■ 写真右が藤居支店長('83経営)、左は成子玲子さん('02法)

## 2010年度校友会新卒幹事懇談会が開かれました

3月18日(金)、朱雀キャンパスで「2010年度校友会新卒幹事懇談会」が開かれた。

今年度は、校友会から林幸雄校友会副会長が出席し、各学部から選出された新卒幹事候補(同日現在)6名と歓談した。林副会長は「『製造年月日(=誕生日)』を変えないが、才能を発揮できる『賞味期



限』は努力すれば延ばすことができる。異業種の仲間や先輩諸氏との交流を意味のある生き方へとつなげてほしい」と、候補者にエールを送った。候補者は、林副会長の学生時代や社会で活躍する校友たちの話題に聞き入り、校友会活動への強い関心を示していた。

これに先立ち、「2010年度立命館総長主催卒業生代表との懇談会」が開催され、卒業生代表、学部総代、総長表彰者と新卒幹事候補者が一堂に会し、学園役職者とともに和やかな雰囲気の中で交流を深めた。

新卒幹事候補者は6月4日(土)の幹事会にて、山中諄会長によって指名・選任されたことが報告された(新卒幹事一覧はP.17に掲載)。

## スポーツフェロー創設 30 周年記念式典・祝賀会が開かれました

5月21日(土)、京都全日空ホテルで「立命館スポーツフェロー創設 30 周年記念式典・祝賀会」が開催された。川口清史学園総長ら学園関係者や、山田啓二京都府知事、門川大作京都市長、体育会OB会幹部など約 600 名が集い、30 年の発展を華々しく祝った。

冒頭、村岡治立命館スポーツフェロー会長が「スポーツフェロー憲章に基づき、これからも大学と一体となって学生を支援し、皆さん



■ 写真①

んに喜んで頂けるよう邁進したい」と挨拶。続く来賓からの祝辞では、川口清史立命館総長が「フェローの発展と同時に、立命館スポーツの発展の 30 年であった。スポーツは学生が成長していく上で大変重要なファクター。これ

れからも大学が責任をもって育てていきたい」と述べ、長田豊臣立命館理事長が「皆さんに支えられてここまでやってこれてきた。21 世紀の大学を作っていく私たちの今後を見守ってほし

い」と話した。

功労者表彰＝写真①＝のあと、「乾杯！」の声とともに祝賀会がスタート。和太鼓や応援団の若さあふれる演舞を楽しみ、最後は校歌と「グレーター立命」を一同斉唱＝写真②。大盛況のうちに幕を閉じた。



■ 写真②

## 校友会奨学金授与式が行なわれました

3月18日(金)、課外・自主活動において立命館大学の誇りとアイデンティティを高めることに寄与した個人を表彰する「2010 年度校友会奨学金授与式」が、「課外自主活動個人奨励金・団体助成金授与式」と併せて朱雀キャンパスで行なわれました。

式典には、校友会から浅賀博校友会副会長が出席し、「皆さんの素

晴らしい活躍に励まされることになりました。皆さんの社会での活躍が母校の発展につながる。校友会においても活発な活動で輝き続けてほしい」と受賞者へ励まし言葉を送りました。

受賞者代表のカヌー部・渡邊大規さん(経営学部4回生＝当時)は「今年はカヌーを通していろんなことを学んだ1年でした。これからもより一層活躍し、ロンドンオリンピックの出場を目指していきたい」と話し、今後の飛躍を誓っていました。



### 校友会会長賞受賞者

島子 隆司	産業社会学部4回生	相撲部
服部 麻世	産業社会学部4回生	テコンドー
渡邊 大規	経営学部4回生	カヌー部
大野 陽子	産業社会学部3回生	柔道部
田中 華絵	経済学部3回生	女子陸上競技部
竹中 理沙	経営学部3回生	女子陸上競技部
浅田 梨紗	文学部1回生	水泳部(飛び込み部門)
川崎 文義	文学部4回生	かるた会
楠木 早紀	産業社会学部3回生	かるた会
横山 大樹	産業社会学部2回生	将棋研究会

## 都道府県校友会

- ◆ 6/5 三重県校友会総会  
(150名・プラザ洞津)

## 海外校友会

- ◆ 4/26 シドニー校友会の集い  
(7名・Star City)
- ◆ 5/18 上海校友会  
(日本料理「ころり」)
- ◆ 5/20 サイゴン校友会  
(9名・ユートピアカフェ)
- ◆ 5/24 英国校友会  
(40名・The Centre Page)



英国校友会

## 地域校友会

- ◆ 3/5 愛知県校友会  
東三河支部総会  
(78名・ウェステージ豊橋)
- ◆ 5/7 奈良県校友会  
天理わだつみ会総会  
(40名・ウェルカムハウス・コトブキ)
- ◆ 5/8 兵庫県校友会西宮支部総会  
(32名・西宮市民会館)
- ◆ 5/15 奈良県北部校友会  
(立命若草会) 総会  
(130名・ホテル日航奈良)
- ◆ 5/21 愛媛県校友会  
宇和島地区立命会総会  
(18名・宇和島第一ホテル)



天理わだつみ会総会



兵庫県校友会西宮支部総会



奈良県北部校友会

## 職域校友会

- ◆ 2/26 衣笠会(京都府庁)総会  
(36名・ホテル平安会館)
- ◆ 5/14 滋賀銀行比叡会総会  
(80名・大津プリンスホテル)



滋賀銀行比叡会総会

- ◆ 5/14 技術士会総会  
(30名・(社)中央電気倶楽部)



技術士会総会

- ◆ 5/28 滋賀県職員校友会設立総会  
(71名・ホテルピアザびわ湖)



滋賀県職員校友会設立総会

- ◆ 5/30 姫路市役所衣笠会総会  
(40名・ホテル日航姫路)

- ◆ 6/1 西宮市役所立朋会総会  
(40名・華厨香)

## 学部・学科校友会

- ◆ 5/27 建設会広島県支部総会  
(50名・広島県民文化センター)

## サークルOB・OG会

- ◆ 3/19 会計学研究会OB会総会  
(50名・京都タワーホテル)

## その他の会

- ◆ 3/14 ワンダーフォーゲルOB会  
1969年卒同期懇親会  
(19名・台湾)



ワンダーフォーゲルOB会

- ◆ 3/28 31会(昭和31年卒  
理工学部機械科同期会)  
(9名・京料理「岡庄」)



31会

- ◆ 4/17 百万遍寮校友会総会  
(40名・石長松菊園)



百万遍寮校友会総会

- ◆ 6/4 ウリ同窓会総会・懇親会  
(50名・立命館朱雀キャンパス)

- ◆ 6/4 辻村・前田・浦山研究室同窓会  
2011年同窓会  
(50名・神泉苑平八)

# オール立命館 校友大会

2011 IN 京都 あのころも これからも はじまりの いまがある

「つながっていること」を確かめるために、それぞれの「はじまり」を見つけるために、集まろう、語り合おう、踏み出そう。

今年は3年ぶりの京都です。

【日時】 **10月29日(土)**

【会場】 **ホテルグランヴィア京都  
京都駅ビル(駅前広場、室町小路広場)**

主催 / 立命館大学校友会、滋賀県校友会、京都校友会、大阪校友会、兵庫県校友会、奈良県校友会、和歌山県校友会

共催 / 立命館大学、立命館アジア太平洋大学

○ 当日のイベント予定タイムライン 詳しくは下記をご覧ください



※都合により内容等に変更が生じる場合がございます。予めご了承ください。

企画 EVENT 1 **総会** 17:00~17:30

企画 EVENT 2 **懇親パーティー** 17:30~19:30

参加有料

事前申込制

先着順

着席形式	¥8,000	定員 1,200名
立食形式	¥4,000	定員 300名

(事前申込が必要です・先着順)



卒業30年目校友(1981年卒)の方は、ご招待(参加費が無料)となります。この機会に、ぜひお申込ください!

場所: ホテルグランヴィア京都  
3F 源氏の間、5F 古今の間ほか  
対象: 校友および同伴者

○ オープニング・アトラクション

太鼓を背負ってどこまでも。 BATIC HOLIC

新進気鋭の若手パフォーマンス  
集団、「パチ・ホリック」  
によるライブ・ステージ。



○ 大会旗引継式 ○ 応援歌斉唱

企画 EVENT 3 **女性校友のための  
アフタヌーンティーパーティー** 12:30~14:00

無料

事前申込制

先着順

場所: ホテルグランヴィア京都  
対象: 女性校友  
(女性もしくは小さなお子様の同伴は可)  
定員: 100名  
(事前申込が必要です・先着順)



※写真はイメージです

企画 EVENT 4 **次世代校友のための特別講演会** 13:30~15:00

無料

事前申込制

先着順

場所: ホテルグランヴィア京都 5F 古今の間  
対象: 校友および同伴者  
定員: 300名  
(事前申込が必要です・先着順)

企画 EVENT 5 **一・笑・懸・命  
四代目 桂 塩鯛 落語会** 15:00~16:00

無料

事前申込制

先着順

場所: ホテルグランヴィア京都 5F竹取の間  
対象: 校友および同伴者  
定員: 300名  
(事前申込が必要です・先着順)



校友で京都出身の落語家・桂 塩鯛氏

企画 EVENT 6 **大会恒例の後輩たちによる  
ステージイベント** 13:00~17:00

見学自由

場所: 京都駅ビル(駅前広場、室町小路広場)  
駅前広場では「第26回国民文化祭・京都2011」との  
コラボや未来の後輩たちの出演も予定しています。  
(随時ご自由にご覧いただけます。)

さらに... **託児室を開設します**

無料

事前申込制

場所: ホテルグランヴィア京都内  
利用対象: 今大会に参加される校友

※事前申込が必要です。  
お預かりできる人数に限りがありますので予めご了承ください。



そして... **KANSAI ゆるキャラ大集合**

見学自由

近畿2府4県の「ゆるキャラ」たちがやってくる!?

※各企画の詳細についてはwebでご確認ください。  
(7月4日WEBサイトオープン予定)

お申込みはWEBフォームから

<http://www.hajimari.info>

はじまり

検索

携帯電話用  
QRコード



**R Alumni**

大会についてのお問い合わせは e-mail: [alumni@st.ritsumei.ac.jp](mailto:alumni@st.ritsumei.ac.jp)  
**立命館大学校友会事務局 (立命館大学社会連携部 校友・父母課)**  
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地 TEL: 075-813-8216 FAX: 075-813-8217

**がんばろう日本**  
立命館大学校友会  
東日本大震災  
被災地復興支援

今大会の参加費および広告協賛金収入の10%を、立命館大学校友会が募集する東日本大震災義援金とさせていただきます。



## デジタルアーカイブで 世界に散らばる日本の美術品の共有化を実現

文学部 **赤間 亮** 教授

世界中の美術館や博物館に眠る日本の素晴らしい美術品や文化財の鑑賞をどこにいても楽しめるように——こんな夢のような願いを実現する研究が今、世界レベルで進められている。その研究とは、「デジタルアーカイブによる日本文化・芸術資料の共有化」研究、すなわち日本の貴重な文化財をデジタル化し、ネット上で公開するというもの。研究の指揮をとるのは、文学部の赤間亮教授だ。

### 海外に流出した日本の文化を誰もが共有できるように

日本の文化財や美術品は江戸期以降世界で高く評価され、数多くの良作が海外に持ち出されてきたという歴史がある。その典型的な例が浮世絵だ。現在、日本国内にある浮世絵の数およそ30万枚に対して、海外にある浮世絵はおよそ50万枚。研究者にとっては、国内の資料だけでなく、世界中に散らばる資料を網羅して科学的に解析しない限り、研究を前進させることが不可能になる。しかしこれまで、海外にある貴重な資料に接することができたのは、その分野の権威といった一部の研究者だけ。それらの研究者が海外の調査を繰り返したとしても、名品の紹介が論文や図録に掲載されるだけで、情報は蓄積されずにきた。「それら文化財をデジタル画像化すれば、いつでも誰でも鑑賞できる」。その発想が赤間教授の研究の原点だ。

### 研究の柱、 アート・リサーチセンター独自のデジタルアーカイブ技術

研究を支えるのは、アートリサーチセンター（ARC）が拠点となって開発を進める独自のデジタルアーカイブ技術だ。その特徴は、入力デバイスや処理装置全体は、開発段階にある最高位のものを使わず、「枯れた技術」つまり、安定した技術を使うということ。資料の撮影に使うカメラは、最高品質でも普通に市販されている民生機だ。最先端技術は費用が高額になるだけでなく、デジタルの場合、ファイル処理するソフトウェア自体がなくなる可能性もある。民生機なら技術の継承性は保証され、高性能で機材はコンパクト。したがって人手も少なく済む。ARCではさらに、照明や撮影対象のセット方法、レンズとカメラ、対象物とフラッシュの組み合わせなど、「研究者の視点からの必要性」を考えた撮影ノウハウを確立し、プロカメラマンではなく資料をよく知る研究者自身による撮影を可能にした。「研究者自らが同じ品質で撮影することができるというプロジェクトはおそらく世界でもARCだけ」。一つの機関の所蔵品すべてを、短時間に同じ品質で撮影することが出来れば資料として使えるが、いくら高精細で撮影しても、作業に時間がかかって網羅しきれなければ資料として使えない。ARCの技術は技術先行型アーカイブ

### PROFILE

1960年 北海道生まれ  
1991年 早稲田大学大学院文学研究科芸術学(演劇)博士課程単位取得退学。文学修士  
立命館大学文学部講師  
1996年 同 助教授  
2000年 同 教授  
現在に至る

'03～'07年、立命館大学先端総合学術研究科教授。'02～'03年、ロンドン大学SOAS客員研究員。'09～'10年度、立命館大学アート・リサーチセンター長。文部科学省の「グローバルCOEプログラム」では、日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点リーダーを務める。  
'08年、上野五月賞受賞。

- 研究テーマ 日本演劇  
芸術・文化分野の資料デジタル化と活用を軸とした研究資源共有化
- 研究概要 出版メディア論、浮世絵・近世文学、演劇・映像の研究  
古典芸能の文化史・文学的な役割を舞台映像・文献両面から研究。古典演劇の世界をいかに保存し、次世代に伝えていくかを観客の視点から問う。文化の伝達的手段として出版史、ネットワークの応用についても力を入れる。
- 所属学会 アート・ドキュメンテーション学会、国際浮世絵学会、日本近世文学会、歌舞伎学会、他

ピングのデメリットを解消し、短時間で、大量に、的確な撮影を実現した。

現場では、日本文化や芸術を学ぶ現地の学生も含め、研究者たちが貴重な美術品や文化財を間近に見ながら作業を進める。「研究者による、研究者のための」撮影法によって、若い研究者たちがアーカイブ作業を通して知識を深め、技術を習得し、成長することが出来るのだ。この仕組みは今、「ARCメソッド」として世界でも知られ始めている。

## 世界に広がる「ARCメソッド」

ARCメソッドへの信頼から、赤間教授のもとには世界中から協力依頼が舞い込む。イギリスでは、ヴィクトリア&アルバート美術館が所蔵する「ほぼ眠った状態」だった浮世絵約4万枚や、大英博物館所蔵の浮世絵約1万8千枚をすべてアーカイビング。イタリアやチェコ、ベルギーなどの所蔵機関とも厚い信頼関係を築いてきた。蓄積されたデータは、ARCがWebデータベース化しているもので約26万枚。現在作業を進めているものも含めれば約30万枚となる。たくさんの数の作品を比較することによって、これまで考えられなかったことのない作品本来の意味が浮かび上がってくるようになった。「同じ作品からの新発見も日常茶飯事です」。

浮世絵や版本だけでなく、竹工芸や陶磁器、漆器といった立体作品の研究でも世界展開を始めている。2013年に大英博物館で開催される、ARCと大英博物館など4機関による大プロジェクト「春画」展に向けて昨年からの研究活動を進行中で、近日中には歌舞伎に関する資料を集めたネット上のミュージアム「歌舞伎デジタル博物館」も稼動する予定だ。「ARCメソッドを立命館の学生だけでなく、日本文化を学ぶ各国の学生にも伝え、各地で研究を行なうその学生たちが文化の共有化を世界中で進めてくれれば。どこにいても、誰もが、日本の文化に触れられるように。その意味では、世界制覇も夢じゃないかもしれません(笑)」。



## 多数のデータ比較から見えてきた新しい作品世界

多数の作品を研究できるようになった結果、一枚の作品のみを見ていただけではわからなかったような読み解き方が簡単に出来るようになった。

例えば、浮世絵師・写楽の作品は、明治になってからたくさんの複製が作られているが、各地の博物館に所蔵される作品は、どれも江戸時代に制作されたものとされている。しかし、デジタルデータで比べてみると随所に彫りや摺りの違いが発見できる。当然、本物は一つのはずで、本物といわれている内のいくつかは、明治期以降の精巧な複製品である可能性が高いということになる。これらデータベースはARCのサイト上で公開の許諾がとれた作品が公開されているほか、大英博物館など各協力先所蔵機関のWebサイトで順次公開されており、そこでは一般も閲覧可能だ。



大英博物館データベース  
[http://www.britishmuseum.org/research/search\\_the\\_collection\\_database.aspx](http://www.britishmuseum.org/research/search_the_collection_database.aspx)



立命館ARC所蔵 arcUP1677  
<http://www.dh-jac.net/db/arcnishikie/default.htm>

## 我が青春時代の思い出

半世紀ほど前、四国・松山市で立命館大学総長・末川博先生の講演会があった。私は講話の内容に深く感銘し、立命館の受験を決意した。中京区堺町三条の下宿からは歩いて学校まで通った。

広小路学舎には法学部・経済学部・文学部の3学部があったが、3回生までは主に河原町通りの木造校舎で学んだ。4回生の時、広小路に4階建ての文学部新校舎が完成した。地下にできた大食堂では、外食券があると朝食が35円で食べられた。

小生は、あまり真剣に勉強に取り組んだ記憶はないが、中国文学を白川静先生に、哲学を梅原猛先生に学んだ。そのほか、文学部には日本史の権威、奈良本辰也先生などがいた。

広小路学舎は、今は往時をしのぶ面影もないと聞かすが、私にとって青春時代を謳歌した決して忘れることの出来ない特別な場所である。西京極球場での野球の立同戦では、円山公園の野外音楽堂で試合前日に行なわれる前夜祭に必ず参加して、応援歌『グレーター立命』

や校歌を感激に酔いしれながら歌った。あの感動は今もはっきりと覚えている。

下宿の近くには有名な「イノダコーヒ」があった。生演奏が聴ける河原町四条のジャズ喫茶「ベラミ」には、食事代を儉約してよく通った。太秦には松竹・大映・東映の撮影所があり、アルバイトで映画のエキストラにも出演した。

昭和30年代前半は、過激な学生運動もなくじっくりと学問に励むことができた。当時、立命館の学生は「りっちゃん」という愛称で呼ばれ、京都市民は親しみをもって接してくれた。ありがたいことである。

創立110周年を迎えた母校立命館の限りなき躍進を心より念じて。フレーフレー立命!

後藤雅昭(58文)



## 70年の時空を超えて今甦る立命魂

立命館大学を卒業後、京都市役所に勤務。定年後も市役所に非常勤嘱託として勤務し、40歳以上の現職職員のライフプランの相談に携わってきました。その間、その後と、機会をとらえて九つの京都市の姉妹都市、パリ(フランス)、フィレンツェ(イタリア)、プラハ(チェコ)、グアダハラ(メキシコ)、ポストン(アメリカ)、キエフ(ウクライナ)、ザグレブ(クロアチア)、西安(中国)を歴訪し、国際交流を深めました。外国語が少しでも話せると、相手と意思の疎通を欠くことなく相互理解につながります。少しずつの取り組みが実を結ぶと楽しい人生を築くことが可能です。

2010年、孫、悠吾(7歳)が立命館小学校に入学し、今後の立命館魂の発揮に期待しています。現在、3世代7名が仲良く一緒に暮らしております。7歳と77歳の70年の時空を超えた情景です。

杉江泰定(56経済)



高津古文化会館で

## 校友の皆様からの情報と投稿をお待ちしています

校友会報「りつめい」では、読者の方々の投稿と「立命館 思い出の場所はいま…」に掲載する情報を募集しています。

## ○「読者の声」投稿募集

皆さまのご意見をお寄せ下さい(400~800字)。郵便、ファクス、Eメールのいずれでも結構です。

## ○「立命館 思い出の場所はいま…」の情報募集

皆さまが通っていた立命館のキャンパス周辺は今、どうなっているのでしょうか。校友会報「りつめい」では、皆さまから取材してほしい母校周辺の情報を募り、誌面の中で取り上げるコーナー「立命館 思い出の場所はいま…」を随時掲載しています。皆さまからの情報に基づいて、各キャンパス周辺の“いまの姿”をお届けします。

下記の①~③をご記入のうえ、ファクスまたはメールにてご応募下さい(メールの方は、件名を「立命館 思い出の場所はいま…」として下さい)。

①誌面掲載を希望する場所(例:衣笠キャンパス近くの喫茶店「○○」) ②その場所に関するエピソード

③卒業年、卒業学部、通っていたキャンパス、お名前、電話番号、メールアドレス \*掲載希望の写真がある方はその旨明記をお願いします。

いずれも掲載の採否は校友会広報委員会にて決定いたします。採用が決まりました方には、追ってこちらからご連絡させていただきます。

宛て先

立命館大学校友会事務局 「読者の声」係 または「立命館 思い出の場所はいま…」係  
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1  
TEL:075-813-8216 FAX:075-813-8217 E-mail:alumni@st.ritsume.ac.jp

募集



### 「スウェーデン カロリンスカ研究所」からの 科学写真パネル33点をBKC図書館内に展示

ノーベル医学・生理学賞の選考委員会が設置されていることでも有名なスウェーデンのカロリンスカ研究所より提供された、科学写真パネル33点をびわこ・くさつキャンパス(BKC)メディアセンター「ライフサイエンス・アカデミックラウンジ」にて展示しています。



写真パネルは昨年行われたカロリンスカ研究所の創立200周年記念イベント時に制作されたもので、ライフサイエンスの世界的に著名な写真家であるレナート・ニルソン氏の作品です。展示は2012年12月までを予定しています。

#### お問い合わせ先

- 写真パネルについて 生命科学部・薬学部 教学課 TEL:077-561-5021
- メディアセンター入館手続きについて TEL:077-561-2634

### 「2010年度事業報告書」および 「2011年度事業計画書」のご案内

このたび、学校法人立命館の「2010年度事業報告書」および「2011年度事業計画書」を発行いたしました。大学ホームページでも閲覧可能です。

[http://www.ritsumeiji.jp/profile/a08\\_j.html](http://www.ritsumeiji.jp/profile/a08_j.html)

なお、冊子をご希望の場合は、下記の事務局宛にご希望の冊子名、冊数とお名前、送付先、電話番号をご記入の上、ファックスにてお申込みください。



#### 学校法人立命館 事業計画課

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地  
TEL:075-813-8244 / FAX:075-813-8252

## 立命館東京キャンパス・大阪キャンパス公開講座

### 先端を駆けるリーダーたちの「挑戦」～その成功の秘訣～

立命館東京キャンパス・立命館大阪キャンパス 共催

	開催日	講師名	講演タイトル
第2回	7/1(金)	アメリカンファミリー生命保険会社 アフラック創業者・最高顧問 大竹 美喜 氏	未開拓の分野を創造する「がん保険」という新サービスを立ち上げる軌跡(仮称)
第3回	7/22(金)	観光庁 長官 溝畑 宏 氏	ジャパニーズセールスマン 観光立国日本の実現目指す観光庁長官の夢、仕事、働き方
第4回	11/11(金)	株式会社伝統デザイン工房 代表取締役社長 高橋 万太郎 氏	おいしい醤油:こだわり調味料の専門サイト-職人醤油.com-起業-ゼロからニュービジネスを立ち上げる-
第5回	11/25(金)	日本赤十字社 副社長 大塚 義治 氏	官庁のキャリア最前線で活躍する働き方、生き方(仮称)
第6回	12/9(金)	株式会社パル 代表取締役会長 井上 英隆 氏	移り変わりの激しいファッション業界で、拡大を続ける経営術の秘訣

- 会 場 立命館東京キャンパス・立命館大阪キャンパス  
\*大阪キャンパスはサテライト中継となります。
- 時 間 19:00～20:40
- 定 員 東京キャンパス60名・大阪キャンパス50名
- 受講料 1回2,000円

#### お問い合わせ先

立命館東京キャンパス TEL:03-5224-8188  
立命館大阪オフィス TEL:06-6360-4895

### 2011年度 大阪・京都文化講座(後期)「大阪・京都の風土と景観」

大阪大学21世紀懐徳堂・立命館大学文学部・立命館大阪キャンパス・立命館東京キャンパス共催

	開催日	講師名	講演タイトル
第1回	10/17(月)	大阪大学 文学研究科 教授 堤 研二	大阪の地域特性とその課題
第2回	10/24(月)	立命館大学 文学部 教授 片平 博文	平安京に降った雪 -王朝時代の「雪山」作りから-
第3回	10/31(月)	大阪大学 文学研究科 教授 小林 茂	城下町大坂 -江戸時代の大阪を考える-
第4回	11/7(月)	立命館大学 文学部 教授 矢野 桂司	バーチャル京都: 歴史都市京都のデジタル地誌学
第5回	11/14(月)	大阪大学 経済学研究科 教授 高山 正樹	大阪のインナーシティと 都市再生の課題
第6回	11/21(月)	立命館大学 文学部 教授 高橋 学	京都の災害と歓楽街
第7回	11/28(月)	大阪大学 文学研究科 助教 波江 彰彦	大阪における ごみ問題の近現代
第8回	12/5(月)	立命館大学 文学部 准教授 加藤 政洋	京洛の名所と宴席のある風景

- 会 場 立命館大阪キャンパス・立命館東京キャンパス  
\*東京キャンパスはサテライト中継となります。
- 時 間 14:00～15:40(講演90分、質疑応答10分)
- 定 員 大阪キャンパス98名・東京キャンパス60名
- 受講料 1回2,000円(7回以上一括申し込みの場合、13,000円)

## 2011年度 立命館大阪オフィス講座

“学ぶ楽しみ”“知る喜び”は暮らしを豊かにします。本年度も様々な分野の研究者・専門家が、あなたの知的好奇心に応えた熱い講義を展開します。(全21回)

お問い合わせ先 立命館大阪オフィス TEL:06-6360-4895

- 開講期間 2011年9月14日(水)～2012年2月29日(水)
- 会 場 立命館大阪キャンパス
- 時 間 14:00～15:40(講演90分、質疑応答10分)
- 定 員 98名
- 受 講 料 1回1,000円(17回以上一括申し込みの場合、17,000円)

講座スケジュール・講演内容等詳細は立命館大阪キャンパスホームページをご覧ください。

## 東日本大震災 私たちにできること

今回の東日本大震災の発生を受け、学校法人立命館は「東日本大震災関連特別プロジェクト」と「災害復興支援室」を立ち上げました。プロジェクトでは震災後の立命館の教育研究等のあり方を検討します。支援室では、学内外の情報をとりまとめ、学内の教育・研究を活かした学内資源の把握、他大学など外部からの支援要請への対応、学生・教職員によるボランティアの支援活動のサポート等、教育・研究を活かした立命館としての復興支援に取り組んでいます。

また、学園として復興支援の取り組みを紹介するホームページも作成いたしました。今後、ホームページを通じ、情報発信を行っていきます。



★ホームページはこちら→  
<http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/>

## 被災地の現状と私たちにできること 現地調査報告会を開催



東日本大震災復興支援に向けたフォーラムとして5月25日(水)に現地調査報告会を開催しました。

当日は、学生、教職員51名が参加するなか、山口洋典准教授(サービスラーニングセンター副センター長、東日本大震災特別検討プロジェクト委員)より被災地の状況と遠隔地からできる支援に関する報告、建山和由教授(総合企画

室長、災害復興支援室事務局長)より建築学の観点から被災状況に関する報告が行われました。また、参加者との活発な意見交換も行われ、震災復興に関わる今後の取り組み等への意見要望が出されました。今後もフォーラムを継続的に実施していくことを予定しています。

## 自分たちにできる支援を考える 311+Rnet震災支援活動報告会を開催

4月27日(水)、衣笠キャンパスとびわこ・くさつキャンパス(BKC)にて、震災支援活動報告会「テレビではわからない 被災地の現在(いま)と未来(これから)」を開催しました。本報告会は支援活動を行っている学生、教職員が参加する立命館大学震災支援活動情報ネットワーク(311+Rnet)の取り組みを紹介し、参加者に震災復興支援について考えてもらうことを目的として実施されたものです。

当日は、東日本大震災の復興支援活動を行っている学生・教職員が活動を報告。発表者たちは、自分たちにできる支援を考え、まず身近なことから始める大切さを語りました。

会場には両キャンパス合わせて約133人が来場。当日の様子はUstreamでも配信され、多くの人が震災復興支援について考える機会となりました。



## 衣笠図書館内に新しい学習空間 『びあら』がオープン

4月1日(金)、衣笠図書館内旧マルチメディアルームスペースに、ピア・ラーニング(Peer Learning)を促進する学習空間として、「ピア・ラーニングルーム(呼称『びあら』)」が誕生しました。

「びあら」は、「仲間(びあ: Peer)とともに学ぶ楽しさ、成長する喜びを感じる場であること」をコンセプトに、学生の主体的で創造的な学びが促進されるようデザインされたスペースです。特にグループ学習やアクティブラーニングが活発に行われるように、様々な施設・サポートが提供されています。

今後は、より多くの学生が学習に活用し、また身近な存在になるよう、学習サポート内容の豊富化や、各種講座、セミナー、イベント等の開発・実施など行っていく予定です。



グループワークで学生が利用する様子

## BKCに「ランチストリート」がオープン!

4月7日(木)から、BKCに新しく「ランチストリート」が誕生。学生の食環境が更に充実します。この「ランチストリート」は2009年度キャンパス整備プロジェクトに参加していた学生



スタッフと学友会による提案・要望によって生まれました。「ランチストリート」で出されるメニューは、BKC周辺のお店による、BKCの学生のための特別メニューとなっています。

お店は平日午前11時から午後2時まで営業し、いずれもテイクアウト専門店、学生や職員以外の人も利用できます。

★「ランチストリート」の詳細はRS WEBから→  
<http://www.ritsumei.ac.jp/rs/>

## 国際関係学部 グローバル・スタディーズ専攻を開設

国際関係学部において、本年4月、新たにグローバル・スタディーズ専攻を開設し、32名の新生を迎えました。

本専攻は、英語による授業のみで、卒業に必要な単位を修得することができます。また、専門科目を英語で学ぶための高度な英語教育を行うほか、日本人学生と多様な出身国・地域の外国人留学生が共に学ぶことも特徴です。

異文化への理解力や適応力、高度な語学力を養いながら、日本と世界の架け橋として活躍できるグローバル人材を育成します。

★国際関係学部のホームページはこちら→

<http://www.ritsumei.ac.jp/ir/>



## 「ビジュアル・ディレクター」の育成を目指す 映像研究科を開設

本年4月、衣笠キャンパスに映像研究科が開設されました。

映像研究科は、映像に関する制作、流通、販売についての総合的な知識を更に深め、専門領域に応じた高い能力を備える人材(ビジュアル・ディレクター)の育成を目的としています。

また、映像諸分野において高いコミュニケーション能力と社会的な働きかけを行う行動力・実践力を養成するため、講義のみならず実習・演習による実践的な学習にも重点を置いたカリキュラムとなっています。

★映像研究科の詳細はこちら→

<http://www.ritsumei.ac.jp/gseizo/>



立命館松竹スタジオ(京都市右京区)で「特殊映像実習」の授業を受ける大学院学生たち

## 本学研究チームが「地盤工学会 関西支部賞・地盤技術賞」を受賞

田中克彦・立命館大学総合理工学研究機構教授、深川良一・立命館大学理工学部教授、酒匂一成・立命館グローバル・イノベーション研究機構准教授、平岡伸隆さん(深川研究室・理工学研究科M2)の研究チームが、JR東日本との共同研究で「地盤工学会関西支部賞・地盤技術賞」を受賞しました。この賞は、地盤工学の発展に顕著な貢献を果たした技術開発に対して贈られる賞です。

当研究チームは、自動車のバックソナーなどに利用されている安価な超音波センサを斜面表層内の含水状態の評価に適用できることを明らかにし、それを実用化段階にまで高めたことが評価され、今回の受賞に至りました。集中豪雨や台風時に監視すべき多くの斜面の危険性を予知する新しいモニタリング技術として期待されています。



## 立命館高等学校がコアSSHの指定校に



文部科学省指定スーパーサイエンスハイスクール(以下SSH)事業の「コアSSH」に立命館高等学校が選ばれました。

「コアSSH」とはSSH指定校(全国148校)の理数系教育における中核としての機能強化を目的として追加の支援を行うもので、全国で29校採択されています。

「コアSSH」の採択を受け、今年度は本校主催で毎年開催している「Rits Super Science Fair」の規模を拡大し、「第1回 Japan Super Science Fair\*」としての開催を予定するなど、日本のSSH指定校と海外の理数教育重点校との連携を深めるための企画を実施していきます。

今後も日本の科学教育における国際化推進の拠点校を目指して、教育活動に取り組みます。

★立命館中学校・高等学校のホームページはこちら→

<http://www.ritsumei.ac.jp/fkc/index-j.html>

※世界各国の高校生が一堂に会して科学研究の発表を行うイベント。

## 2011年度立命館大学・大学院入学式を挙行

4月4日(月)、京セラドーム大阪にて2011年度立命館大学・大学院入学式を実施しました。式典には7,761名の学部新生、そして1,318名の大学院新生が参加。また父母や校友、在学生など約17,000名が集い、新生の新たなスタートを歓迎・祝福しました。

第一部の入学式典では、最初に東日本大震災で犠牲となられた方々への哀悼の意と復興への祈りを表し、会場全体で黙祷を行った後、川口清史・立命館大学学長が式辞を述べました。川口学長は、「今年の入学生諸君は特別な年度の入学生となりました。東日本大震災を経験し、みなさんの生き方そのものに影響を与える程の特別な課題に直面して入学することとなったのです。これから始まる大学での勉学をとおして、具体的に日本社会の再生に貢献できる道を模索してください。そして、みなさんの手で未来をつくっていきましょう」と新生にエールを送りました。

第二部の新生歓迎式典では、「Creating a Future Beyond Borders～自分を超える、未来をつくる～」をテーマに研究、留学、課外活動など様々な分野で自らを磨く先輩学生がトークを展開。最後は応援歌「グレーター立命」を全員で合唱し閉幕となりました。

また、ドーム前では在学生による東日本大震災の募金活動が行われました。

入学式の詳しい模様は立命館HPの「RS WEB」からご覧いただけます。 <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/>



## SPORTS スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター  
075-465-7863

## 陸上競技部

## 第59回兵庫リレーカーニバル

## ハーフマラソンで岩川真知子さんが優勝!

(4月23日 神戸ユニバーシアード記念競技場)

第59回兵庫リレーカーニバルのハーフマラソン代表選考10,000m決勝で岩川真知子さん(経営4)が優勝に輝いた。本大会は8月に中国・深圳で開催される第26回夏季ユニバーシアードの代表選考も兼ねており、岩川さんはハーフマラソンの代表に内定した。また、同大会の女子グランプリ10,000m決勝で田中華絵さん(経済4)が5位に入り、10,000mのユニバーシアード代表に内定した。

第45回織田幹雄記念国際陸上競技大会  
男子100mで小谷優介さんが優勝!

(4月29日 広島広域公園陸上競技場)

世界選手権代表選考会を兼ねた第45回織田幹雄記念国際陸上競技大会の男子100mで小谷優介さん(経済4)が優勝を飾った。

第88回関西学生陸上競技対校選手権大会  
男女共に総合2位を獲得

(5月12日～15日 長居第2陸上競技場)



## 主な成績

- ◆男子1,500m  
優勝 今崎俊樹(経営3)
- ◆女子1,500m  
優勝 藪下明音(経営2)
- ◆女子10,000m  
優勝 田中華絵(経済4)
- ◆男子100m  
優勝 小谷優介(経済4) 3連覇

- ◆男子5,000m  
優勝 今崎俊樹(経営3) 2連覇
- ◆男子走り高跳び  
優勝 佐々木竜一(スポーツ健康科学研究科2) 4連覇
- ◆女子走り幅跳び  
優勝 梶木千妃呂(経済3)
- ◆男子200m優勝  
堀江新太郎(経済3)
- ◆男子400m障害  
優勝 小西勇太(経済3) 大会新記録
- ◆女子5,000m  
優勝 田中華絵(経済4)
- ◆女子5,000m競歩  
優勝 前田浩唯(経済2)
- ◆女子三段跳び  
優勝 夜久和(産社4)

## バドミントン部

## 関西学生春季リーグ戦春秋連覇を達成

(5月7日 大阪市中央体育館)

関西学生春季リーグ戦(男子団体)の最終戦において、立命館大学は近畿大学と対戦し、4-1で勝利した。最終的に勝敗数で並んだ龍谷大学をポイント差で逆転し、秋季リーグ戦に続き優勝に輝いた。また春季リーグ戦の最優秀賞(MVP)に宇野賢人さん(産社3)が選ばれた。



## 柔道部

## 第19回関西学生女子柔道優勝大会において4連覇達成

(5月15日 尼崎市ペイコム総合体育館)

第19回関西学生女子柔道優勝大会が開催され、女子5人制で柔道部女子が4連覇を達



成した。

この結果、6月24日(金)～26日(日)に日本武道館で開催される全日本学生女子柔道優勝大会に関西優勝校として出場する。

## 立命館宇治高等学校

## 春季京都府高校野球大会で

## 立命館宇治高等学校が29年ぶりの優勝

(5月15日 わかさスタジアム京都)



春季京都府高校野球大会 決勝戦において、立命館宇治高等学校が福知山成美高等学校に4-3で勝利。29年ぶり3度目の優勝を飾った。

また、6月4日(土)に開催された春季近畿地区高校野球大会では、1回戦で大阪桐蔭高等学校と対戦。接戦の末、6-5で勝利し、4強入りを果たした。

## CAMPUS ACTIVITIES 学生活動

問い合わせ先：学生オフィス  
075-465-8167

## SWEETBOYS

草津市の花「青花」を使った  
スイーツが完成!

(5月19日 びわこ・くさつキャンパス)

お菓子作りサークル「SWEETBOYS」は、草津市の花である「青花」をPRするために地元企業や行政の方と協力して「青花スイーツ」の開発に取り組んでいる。





2010年4月にスタートしたこのプロジェクトでは、「青花」の苗植えや「青花」の特性を知るために、レシピコンテストを開催してきた。今回、スイーツ企画第1弾として、「青花スフレチーズ」が完成。初の商品化にむけて製造企業の選定、販売プロモーションの考案など、学生が中心となって進めてきた。

立命館大学の創立記念日である5月19日(木)にはびわこ・くさつキャンパス(BKC)にてプレ販売を実施。3時間で300個が売れるほどの大盛況ぶりだった。

「青花スフレチーズ」は6月中旬からBKCの大学生協で一般販売することを予定している。

### ライフサイエンス研究会

#### 「わくわく科学実験in立命館～しゃぼんでR～」を開催!

(4月30日 びわこ・くさつキャンパス)



ライフサイエンス研究会が小学生を対象とした「わくわく科学実験in立命館～しゃぼんでR～」を開催した。会場には50名ほどの小学生とその保護者が集まった。

当日は、7つの班に別れて、水中にしゃぼん玉ができる「水中しゃぼん玉」や軍手で触っても割れることなく弾む「はすむしゃぼん玉」など、しゃぼん玉をテーマとした実験が行われた。イベントの目玉として、体全体を覆うほどの超巨大しゃぼん玉が用意され、児童たちは、そのしゃぼん玉の中に入り、不思議な感覚を楽しんだ。

### ReSMILE

#### 東日本大震災支援に向けて「おむすびチャリティ活動」を実施

(4月12日～29日 びわこ・くさつキャンパス)

東日本大震災の復興支援のために結成されたスポーツ健康科学部の学生有志団体



「O結び」を配布する様子

「ReSMILE (リスマイル)」が、「おむすびチャリティ活動」プロジェクトを実施した。

このプロジェクトでは、スポーツ健康科学部に所属する学生15名が、「スポーツ栄養学」を専門分野とする教員、「管理栄養士」の資格を持つ大学院生のサポートの下、スポーツ栄養学の知識を活かした「O結び(おむすび)」を考案。インテグレーションコアの栄養調理実習室で調理をし、キャンパスで募金をしてくれた人に配った。

「O結び」のお米については草津市内の農家にご協力をいただき、近江米(滋賀県産)を使用。今回の取組みで集まった募金は義援金として日本赤十字社へ送られた。

### 2011年度「新歓祭典」を開催

(4月23日 びわこ・くさつキャンパス)

びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて、「新歓祭典～新しい君と出会う～」が開催された。

新歓祭典は秋の学園祭に次ぐ学生主体の大きなイベント。特設ステージでは、課外自主活



セントラルステージでのライブ演奏

動団体によるダンスパフォーマンスやライブ演奏が披露された。また、教室やセントラルアークには学術・学芸団体の展示・体験コーナーなどが設けられ、これらの企画を通じて多くの新入生が同級生・上回生と親交を深めていた。

なお、今年は東日本大震災を受け、学生による募金活動や支援物資の募集が行われ、集まった支援物資や募金は被災地へ送り届けられた。

### 学生が企画・出演・制作を担当するラジオ番組「Radio B☆B」がスタート!

(5月7日 FM京都 α-STATION)

5月7日(土)より、学生が企画・出演・制作を担当するラジオ番組「Radio B☆B」がFM京都「α-STATION」でスタートした。

番組コンセプトは、「Beyond Borders」。年齢・性別・地域・人種・職業など、世の中(社会)にある様々な「Border」を、未来を担う若者が、苦しみ、迷い、悩みながらも、仲間とともに超えて、様々な成長を遂げていく姿を伝えていく。大学の街「京都」から、「若者を元気に!」「京都を元気に!」「社会を元気に!」するために、あらゆる「Border」を超えて、リスナーにエールを送る30分。

オンエアは毎週土曜日20:30-21:00。土曜日はぜひラジオを89.4MHz α-STATIONに合わせてみてください。



### 「Radio B☆B」番組概要

- ①放送日時:  
毎週土曜日 20:30～21:00
- ②放送局:  
FM京都89.4MHz α-STATION
- ③放送内容:  
学生が企画・出演・構成・制作・編集を行う。ドキュメンタリー、京都コンテンツ、ラジオドラマ、音楽情報などのテーマで毎週オンエア。

校友会・グループ インフォメーション

校友会・グループ	日時	会場	問い合わせ先
岩手県校友会総会	7/2(土) 15:00	ホテル東日本	酒井 博忠 019(654)3893
法学部商法塩田ゼミOB会	7/2(土) 16:30	京都ホテルオークラ	川端 豊 090(7367)7300
八幡支部総会	7/3(日) 10:30	松花堂庭園内	岡島 完治 075(983)3063
大阪校友会年次大会	7/8(金) 18:30	スイスホテル南海大阪	立命館大阪キャンパス 06(6360)4895
山口周南地区校友会総会	7/9(土) 18:30	ザンルート徳山	小西ヨシ子 0833(41)0412
広島県東部校友会新入会員歓迎会	7/9(土) 16:00	福山コロナワールド内ポウリング場	村上 隆昭 090(7375)1316
全国行政書士立命会総会	7/16(土) 11:30	立命館朱雀キャンパス	松本 茂 (職)072(334)0150
青森県校友会総会	7/23(土) 15:00	ウェディングプラザ アラスカ	船水 重利 017(722)2926
徳島県校友会総会	7/23(土) 16:00	阿波観光ホテル	宮崎 房子 088(645)0897
愛媛県校友会総会	7/23(土) 17:00	国際ホテル松山	石田 二郎 089(925)2547
岡山県校友会総会	7/24(日) 17:00	アークホテル岡山	守屋 博司 (職)086(232)0945
駿府会総会	7/24(日) 15:00	クーボール会館	野中 英明 (FAX)054(264)6754
熊本県校友会総会	9/3(土) 17:00	熊本全日空ホテルニュースカイ	飯田 俊之 (職)096(326)8625
湘南クラブ	9/4(日) 11:00	鎌倉芸術館	茂山 哲也 045(852)4562
軽音楽部ジャズクラブOB会 SUPER SESSION2011 in KYOTO	9/18(日) 13:00	祇園ホテル	福井 正秋 075(861)0815
新潟県校友会総会	10/1(土) 14:00	ホテルイタリア軒	小畑 正敏 025(247)2478
岐阜県校友会総会	10/8(土) 15:30	岐阜都ホテル	房野麻紀子 (職)0584(74)3036

※「りつめい」春号(244号)で掲載した7月2日開催予定の「神奈川県校友の集い」は延期されました。

校友消息 (判明分)

就任 (内定含む)

- 杉本英雄氏('85産社) (株)さかい代表取締役社長 3月7日就任
- 石澤俊一氏('81経営) 日立電子サービス(株)中部支社長&COO 4月1日就任
- 井ノ上大輔氏('10院経営) 日本写真印刷(株)執行役員経営企画部長 4月1日就任
- 小川達雄氏('80法) 京都弁護士会会長 4月1日就任
- 松本充生氏('78理工) (株)タカキタ代表取締役社長 4月1日就任
- 青山 明氏('66経済) (株)グリーンクロス取締役最高顧問 4月30日就任
- 石見利勝氏(元本学教授) 姫路市長(再選) 5月2日再任
- 春野伸治氏('76経済) (株)ジャックス社長兼COO 6月29日就任予定

訃報

- 木村保一氏('54経済) (校友会幹事) 3月11日ご逝去。82歳
- 小澤崇志氏('62経済) (山梨県校友会幹事) 3月16日ご逝去。71歳
- 長尾治助氏 (本学名誉教授) 4月6日ご逝去。79歳
- 大井一星氏('53法) (法学部同窓会会長、前・石川県校友会会長) 5月28日ご逝去。80歳

BOOKS

校友会へご惠贈下さいました本の中から紹介させていただいております。

- ◆ 尾賀 聡氏('95文)著 『くれーじー・ばいせん、オーストラリアをゆく』 鳥影社 \* 1500円+税
- ◆ 小川幹雄氏('73経済)著 『舞台監督』 翰林書房 \* 2800円+税
- ◆ 奥野みち子氏('03文)著 『創作の魔術師 トニ・モリスン』 大阪公立大学共同出版会 \* 2400円+税
- ◆ 豊田 保氏('74産社)著 『福祉コミュニティの形成と市民福祉活動【第2版】』 明文社 \* 2200円+税
- ◆ 道野真弘氏('94院法博前)著 『法律の読み方・学び方』 実務教育出版 \* 1400円+税
- ◆ 山崎泰正氏('61院法修)著 『信長・秀吉、京の城と社寺』 ふたば書房 \* 1700円+税

お詫びと訂正

りつめい244号18～19ページ「都道府県校友会・学部校友会 連絡先一覧」において、立命館大学理工系同窓会連絡協議会の会長を八村広三郎氏と掲載しましたが、正しくは中山康之氏の誤りでした。ここに訂正し、深くお詫び申し上げます。

立命館大学国際平和ミュージアム企画展のご案内

特別企画 写真展

「東日本大震災の現場から」

今展では、東日本大震災発生直後から、被災地である福島、宮城、岩手で取材を続けている日本ビジュアル・ジャーナリスト協会(JVJA)のメンバーが記録した写真をパネル展示します。震災の事実を伝え、復興への決意を新たに、そして特に被災地から離れた地に暮らす人々の被災地への想いを呼び起こすきっかけの場になればと考えております。

同時に、放射線防護学も専門である安斎育郎国際平和ミュージアム名誉館長が4、5月と2度にわたって福島県を訪れ、放射線レベルの測定や汚染土壌の採取を行なうとともに、現地で講演を行った様子などを紹介しています。

※立命館大学国際平和ミュージアム1階ロビーにて開催中

第66回ミニ企画展示

「むすんで、ひらいて、戦争ってなに?」

～(腹三とキヨ)ふたりを引き裂き、結んだもの。～

ミュージアム・メディア資料室で活動する学生スタッフ3名が、資料整理の経験を活かして資料を「魅せる」ことを提案します。「資料を間近で深く観察すること」や「連続して資料にあたること」を通して、ひとつひとつの資料の裏にある人たちの生活が浮かび上がるような展示を目指します!

第67回ミニ企画展示

「戦時下の食卓 一朝・昼・晩一」

総力戦としての十五年戦争は、占領地や国内の人々の生活に大きな影響を及ぼしました。ミュージアムの収蔵品約50点の展示を通じて、いつの時代にも人々の生活にとって最も根幹的な「食」にまつわる事情を紹介します。

会期

特別企画 写真展 「東日本大震災の現場から」第2弾 2011年6月21日(火)～7月30日(土)

2011年 春季特別展 「世界187の顔 一生命の現場から」 開催中～7月10日(日)

第66回 ミニ企画展示 「むすんで、ひらいて、戦争ってなに?～(腹三とキヨ)ふたりを引き裂き、結んだもの。」 2011年7月3日(日)～18日(月・祝)

第67回 ミニ企画展示 「戦時下の食卓 一朝・昼・晩一」 2011年7月22日(金)～8月28日(日)

常設展示(地階・2階)は上記展示期間以外でも見学することができます。

開館時間

午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日

月曜日(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日※9/1(木)～9/7(水)は休館

観覧料

一般400円(350円) / 中・高生300円(250円) / 小学生200円(150円) ( )は20名以上の団体料金 / 障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料 ※写真展「東日本大震災の現場から」は無料

立命館大学国際平和ミュージアム 特別展・常設展 校友招待券 2011年9月30日(金)まで (校友)登録人(職制別) 校友会「りつめい」 No.246



今回の巨大地震に関して注目されている太平洋プレート。そのプレートに乗るハワイ諸島は年間約8cm西北西の日本に向かって移動していると云う。地下深くに存在するマグマはプレートの動きの源ともいわれ、ハワイの火山でのマグマ噴出が続いている。古来現地では火山の女神「ペレ」に対し畏敬の念を持って接している。巨大地震の発生がペレの怒りとするならば悲しい。一方、在ハワイの友人情報によると、現地では未曾有の震災に対する支援の輪が広がり、米国有名タレントによるチャリティコンサートでは1億円の義援金が集まったという。人類は強力なエネルギーを発するブラックボックスを開けてしまった。そして戦後その「力」の恩恵を我々は享受してきた。この横たわる厳しい現実を、火の女神ペレは何と感じているのか。

(仲 治實)

「東日本大震災で被災された方たちに、私たちができることは何だろうか?」。誰もが自分自身に問いかけ、何かしたいと思っている。

我が母校の学生たちが、震災後、いち早く被災地へのボランティア活動を始めた記事を新聞で読んだ時は本当にうれしかった。その後もさまざまな活動の記事に接する度に、彼らを誇りに思う。若いエネルギーは貴重なものだ。

経験によって得られる知恵は確かにある。「年の功」という言葉もある。しかし経験は時として人を傲慢にし、柔軟な対応を妨げることもあるようだ。とくに想定外の事態が起こったような時は、先験的(ア・プリアリオリ)な、新鮮で豊かな感性こそが、的確に判断し行動できるという事を、後輩たちに教えられた気がする。

(加藤美佐子)

東日本大震災から3カ月余。TVなどでは震災に関する報道はめっきり減った感があるが、ツイッター上では、ボランティアや救済物資、避難者の受け入れを求める呼びかけが続いている。また、著名人はもとより、身近な友人や知人も支援に関する情報、さまざまな分野の専門家が発する情報などを発信し、環境やエネルギー問題を論じるだけでなく、被災、避難する人びとの場所の確保につとめるなどしている。そこには「何もいわず、何も行動しない」、無関心、無行動、あるいは無視という人びとに対しての発信が常になされているのだ。震災以降、多くのメディアは何を伝えてきたのか。自戒も込め、自らにも言うべきは、情報発信はいつでも誰でもできるということ。今からでも遅くない。

(山岡祐子)

立命館大学校友会が行なっている被災校友のための義援金募集。このほど千葉県校友会の皆様より大きな支援が寄せられました。千葉県域においてもこのたびの震災で大きな被害が生じており、校友のなかにも、不便な生活を強いられている方が多数いらっしゃいます。「私達も大変だが、より深刻な状況で苦しみつつも頑張っている東北の立命館の仲間を、なんとか勇気付けたかった」とは、中心的に募金を呼びかけた千葉県校友会の言葉。立命館の校友会活動が、現役学生と同様に「全国型」であることをあらためて強く実感しました。会報「りつめい」では次号以降も引き続き、震災からの復興に希望と祈りをこめて誌面を構成してまいります。全国からの「継続した支援」の一助となることを目指して。

(野村慶人)

## 堂本印象美術館企画展のご案内

### 企画展

#### 「うつろいゆく時の詩—四季の情景」

季節によって様々な姿を見せる自然の風物は、古くから絵画のモチーフとして愛好されてきました。堂本印象もこうした移ろい行く自然に敏感な感性を働かせて多くの作品を描きました。本展では、印象が描いた季節の風物にまつわる作品をとりあげ、その多彩で独自の自然表現を紹介します。

#### ●ミニ企画展：印象の模写

源氏物語絵巻、大分県・富貴寺本堂の壁画など、日本の古画を模写した作品を展示します。過去の日本美術に向き合った印象の画業を紹介します。



「柘榴」1920年

### 企画展

#### 「印象とアンフォルメル・具体・墨象—戦後の前衛」

昭和30年代以降、堂本印象は日本画材による独自の抽象表現を創造しました。これは印象自身によって「新造形」と名づけられ、欧米でも評価されました。印象が「新造形」にいたった背景には、アンフォルメルなど抽象表現が活発化していた当時の欧米の状況が大きく影響しています。本展では、同様に前衛的な活動を行った具体美術協会や書家森田子龍の墨象の運動との関連も含めて、印象の挑戦的な表現の数々を紹介します。(会期中、一部の作品を入れ替える予定があります)

### 会期

#### 企画展

「うつろいゆく時の詩—四季の情景」/ミニ企画展「印象の模写」  
開催中～8月7日(日)

#### 企画展

「印象とアンフォルメル・具体・墨象—戦後の前衛」  
2011年8月12日(金)～10月23日(日)

### 開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

### 休館日

月曜日(祝日の場合はその翌日) ※8/9(火)～8/11(木)は展示入れ替えのため休館

### 観覧料

一般500円(400円)/高校・大学生400円(320円)/小・中学生200円(160円)  
( )は20名以上の団体料金

65歳以上の方(要証明)および障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料

★イベント・ガイドは、[堂本印象美術館](#) で、[検索](#)

堂本印象美術館  
特別展・常設展  
2011年9月30日(金)まで  
有効期間  
(8/23 8/27 8/28 8/29 8/30) 休館日  
校友会報「りつめい」  
No.245



りつめい No.245/2011年7月号

発行所/立命館大学校友会/年4回発行

発行人/山中 諄

編集人/中村和歳

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

Tel. 075 (813) 8216 Fax. 075 (813) 8217

URL : <http://alumni.ritsumeijp>

E-mail : [alumni@st.ritsumeijp](mailto:alumni@st.ritsumeijp)